

おお さき 遺 跡 (き ふね 木船地区)
大 崎 遺 跡 (木船地区)

2001

財団法人 山口県教育財団
山口県埋蔵文化財センター



遺跡上空より西目山を望む

序

私たちにとって先人が残した文化財は、ふるさとの歴史を理解する上で、大変貴重な財産です。この文化や伝統を継承することは、21世紀に向けて活力と潤いに満ちた社会を創造するために欠くことのできないものです。これらの文化財を損なうことなく未来へ伝えていくことは、今、私たちに与えられた課題であるといえます。

遺跡の保護については、埋蔵文化財保護の立場から基本的には現状保存が望ましいものでありますが、やむを得ず消失することになった地域については、発掘調査を実施し、記録保存を行うこととしております。

本書は、山口県の委託を受けて、財団法人山口県教育財団が実施した防府・高井県営住宅整備工事に伴う大崎遺跡（木船地区）の発掘調査記録です。

調査の結果、弥生時代から中世にかけての集落跡と河川跡が発見されました。また、本遺跡からは、弥生土器をはじめとする数多くの土器類や木製品・石製品などが出土しました。これらの資料は当時の人々のくらしを考える上できわめて貴重で、ふるさとの歴史に新しい事実を加えるものです。

本書が、文化財保護に対する理解を深め、教育並びに学術研究としての資料、また、郷土史の基礎資料として、広く活用されることを願うものであります。

おわりに、調査の実施にあたって御協力いただいた関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成13年3月

財団法人山口県教育財団
理事長 牛見 正彦

例 言

1. 本書は、平成12年度に実施した、大崎遺跡（木船地区）（山口県防府市大字大崎）の発掘調査報告書である。
2. 調査は、防府・高井県営住宅整備工事に伴い、財団法人山口県教育財団が山口県の委託を受けて実施したものである。
3. 調査組織は次の通りである。

調査主体 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター
調査担当 指導主事 西田 宏
指導主事 西尾 健司
4. 調査に当たっては、山口県教育委員会、山口県土木建築部、山口県住宅供給公社、防府市教育委員会並びに地元関係各位から協力・援助を得た。
5. 本書の第1図は、国土地理院発行2万5千分の1地形図「防府」を複製使用、第2図は山口県住宅供給公社提供のものである。第25図は、山口県土木建築部住宅課提供の資料をもとに作成したものである。
6. 出土遺物のうち石製品の石材鑑定は、山口県立山口博物館専門学芸員 亀谷 敦氏に依頼した。

なお、石材鑑定は表面観察によるものである。また、墨書土器の文字の判読は、山口県文書館副館長 戸島 昭氏に依頼した。
7. 本書に使用した方位は、国土地産標（第3座標系）の北で示し、標高は海拔標高で表した。
8. 本書に使用した土色の色調の表記は、農林省農林水産技術会議事務局（監修）『新版標準土色帖』Munsell方式に従った。
9. 図版中の遺物番号は、実測図の遺物番号と対応する。
10. 土器実測図の断面は、黒塗りが須恵器を表す。
11. 本書で使用した遺構略号は、次のとおりである。

SB：建物 SK：土坑 SP：柱穴 SE：井戸 SD：溝状遺構 SX：不明遺構
TR：トレンチ
12. 本書の作成・執筆は、西田・西尾が分担作成し、西田が編集した。

本文目次

I 遺跡の位置と環境	1
II 調査の経緯と概要	3
III 遺構	9
1 掘立柱建物	
2 土坑	
3 井戸	
4 柱穴	
5 不明遺構	
6 河川跡	
IV 遺物	21
V まとめ	37

図版目次

図版1 北東より大崎遺跡を望む 1地区全景	図版11 TR3・4・5完掘
図版2 2地区全景 2地区西側	TR4北西壁・TR5北東壁土層断面
図版3 1地区遺物包含層内遺物出土状況①	2地区遺物包含層内遺物出土状況①
図版4 1地区遺物包含層内遺物出土状況②	図版12 2地区遺物包含層内遺物出土状況②
図版5 1地区杭列検出状況①・②・③	図版13 出土遺物(弥生土器)
1地区杭列内遺物出土状況	図版14 出土遺物(弥生土器・須恵器)
図版6 SE1遺物出土状況 SK3・11 SE1完掘	図版15 出土遺物(土師器1)
図版7 SK2・4・7・13完掘 SK1遺物出土状況	図版16 出土遺物(土師器2)
図版8 SK6・8・10完掘 SK5・9遺物出土状況	図版17 出土遺物(磁器・土師器・瓦質土器)
図版9 SB1・2 SP3・7・10遺物出土状況	図版18 出土遺物(瓦質土器)
図版10 SX3・5・6・7完掘 SX8・SD1遺物出土状況	図版19 出土遺物(土製品・鉄製品
SD1土層断面	・木製品)
	図版20 出土遺物(木製品・石製品)

挿 図 目 次

第1図	遺跡の位置と周辺の遺跡	2	第13図	弥生土器実測図②	23
第2図	調査区設定図	5	第14図	須恵器実測図	23
第3図	1地区の様子	6	第15図	土師器実測図	24
第4図	2地区の様子	7・8	第16図	磁器実測図	25
第5図	SBI・2実測図	10	第17図	土師器・瓦質土器実測図	25
第6図	SK1・2・3・4・5 SX5実測図	11	第18図	瓦質土器実測図	26
第7図	SK6・7・8・9・10・11 ・12・13実測図	12	第19図	土製品実測図	27
第8図	SE1 SP3・10 SX3・4・6・7・8実測図	14	第20図	鉄製品実測図	27
第9図	1地区土層断面図	17	第21図	木製品実測図①	28
第10図	2地区トレンチ土層断面図(1)	18	第22図	木製品実測図②	29
第11図	2地区トレンチ土層断面図(2)	19・20	第23図	石製品実測図①	29
第12図	弥生土器実測図①	22	第24図	石製品実測図②	30
			第25図	ボーリング実施位置 及びボーリング柱状図	38

表 目 次

第1表	土器・土製品観察表(1)	31
第2表	土器・土製品観察表(2)	32
第3表	土器・土製品観察表(3)	33
第4表	土器・土製品観察表(4)	34
第5表	土器・土製品観察表(5)	35
第6表	鉄製品観察表	35
第7表	木製品観察表(1)	35
第8表	木製品観察表(2)	36
第9表	石製品観察表	36

I 遺跡の位置と環境

大崎遺跡は、山口県防府市大字大崎木船に所在する。弥生・古墳時代から中世にわたる集落を中心とする複合遺跡である。「大崎」という地名の由来は、周防一宮玉祖神社の大前にある村の意とも（注進案）、大なる崎の意とも言われる（地名淵源）。大崎の字の初出は大永2年(1522)で、大前という字が古くは使われていた。地名の由来に玉祖神社との関係が取り沙汰されるなど、現在の「大崎」の場所とはやや距たりがある。

本遺跡は、県下最大の沖積平野である防府平野の北西部にあたり、剣川の右岸、佐波川の右岸700m、河口から約5.5kmの地点で、市街地より北西2.6kmの地点にある。標高約10m～11mの緩やかな傾斜地が遺跡中央部を南向きに張り出しており、東西には2m以上一気に落ち込む。剣川は、遺跡の南方を北東から南西方向に緩やかに流れ、佐波川に合流する。右田ヶ岳を源流とする剣川は勝飯を一気に流れ落ち、遺跡付近ではすでに緩流となっていたと推定される。おそらくは蛇行を繰り返して、水害のたびに流路を変えたり、湿地帯を形成したりしていたと考えられる。また、遺跡の北方向背後には標高312mの西目山の根根筋が広がり、北東方向には標高426mの右田ヶ岳を望むことができる。双方の大部分が花崗岩質の岩石を基盤としており、風化による巨岩が中腹から頂上部にかけて至る所に顔を出し、独特の景観を呈している。

周辺の弥生時代の遺跡としては、貯蔵穴群が発見された大崎遺跡をはじめ、奥正権寺遺跡、片山遺跡や高井山寄遺跡、天徳寺遺跡、井上山遺跡、右田・一丁田遺跡、下右田遺跡など、狭い範囲に立地条件の異なる多数の遺跡が確認されている。古代人の生活にとって重要な川をもち、南に西に海を控え、北に東に広い山麓緩斜面や丘陵地帯とそれにつづく沖積地を有し、農耕は勿論山地の特産、海による漁や製塩にも好適な土地であり、恵まれた居住地であったと推察される。

古墳時代の遺跡としては、家形石棺を有す国指定史跡の大日古墳（前方後円墳）をはじめとして、玉祖神社境内遺跡、向山七尾須恵器窯跡、片山古墳群、天神山古墳群、など弥生時代にもまして遺跡数が多く、古墳の質も高い。これらの事実からも、地形・気候に恵まれ、交通の要所であるこの防府に、多くの豪族が居をかまえ、大和文化と北部九州の影響を多分に受けた文化を共に取り入れた融合文化が栄えていたことが窺える。

古代・中世にはいと、玉祖遺跡、下右田遺跡、姫山遺跡などの大集落や墓の遺跡が多く発見されている。奈良時代には周防国府が設けられ、中世まで周防国の政治・経済・文化・軍事の中心地として発展した。交通では、寛平元年に停廃されるまで大前駅が置かれていた。具体的な位置については定かでないが、駅家間の距離が近いことや駅制の衰退で廃止されたと考えられる。遺跡の南方約1kmを東西に旧山陽道が走り、江戸時代まで「大崎渡し」があったとされている。山口街道との分岐点にも近く、交通の要地であったことは容易に推察できる。また、標高2.5mの等高線は、中世における海岸線とはほぼ一致していることから、中世以前には、この防府平野も大半は海面下にあったと考えられる（第1図参照）。旧海外線は、遺跡の南方約1kmまで迫り、穏やかで浅遠の内海が広がり景観は現在と大きく異なっていたであろう。

参考文献

防府市教育委員会	『防府市史 上巻』	1980	山口県地方史学会	『防長地下上中二』	1978
山口県立図書館	『防長風土注進案』	1964	防府市教育委員会	『山口縣右田村史』	
山口県教育委員会	『玉祖遺跡・西小路遺跡』	1983	山口県教育委員会	『奥正権寺遺跡I』	1984
山口県教育委員会	『奥正権寺遺跡II・大崎岡古墳群・大崎遺跡』	1985			
防府市教育委員会	『下右田遺跡 第9・10・13・14・15・17次発掘調査概要』	1999			



- ①大崎遺跡（木船地区） ②大崎遺跡 ③大日古墳 ④高井山寄古墳群 ⑤下右田遺跡
 ⑥右田・一丁田遺跡 ⑦片山古墳群 ⑧天徳寺遺跡 ⑨塚原古墳群 ⑩追戸古墳 ⑪井上山遺跡
 ⑫弘法古鏡遺跡 ⑬大判池須惠器窯跡 ⑭向山七尾須惠器窯跡 ⑮玉祖遺跡

----- : 山陽道

————— : 中世以前の海岸線

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

Ⅱ 調査の経緯と概要

山口県住宅供給公社は、県営住宅の老朽化に伴い、防府・高井県営住宅整備工事を計画した。当該地区における埋蔵文化財の取り扱いについて相談を受けた山口県教育委員会文化財保護課は、計画範囲が周知の右田遺跡の埋蔵文化財包蔵地に含まれることから、事前の予備調査の必要性を指摘した。そこで、山口県住宅供給公社から調査依頼を受けた防府市教育委員会文化財保護課は、平成11年7月と10月の2度にわたって計画区域内の予備調査を行った。その結果、弥生時代から平安時代に及ぶ集落跡の埋存が予測された。この調査の結果を受け、関係機関（山口県住宅課／山口県住宅供給公社／防府市教育委員会文化財保護課／山口県教委文化財保護課）での協議の結果、工事予定区域内北側の2,800㎡について発掘調査が必要であると判断された。しかし、防府市教育委員会では平成12年度の発掘調査計画が過密状況にあり、対応が困難であるとの結論に達し、山口県住宅供給公社は財団法人山口県教育財団／山口県埋蔵文化財センターに発掘調査を受託することとなった。

平成12年4月中旬より事前の諸準備を開始した。現地における関係諸機関との綿密な打ち合わせを行うとともに、近隣の小・中学校、警察署、消防署等に安全確保のための協力と理解を要請した後、5月8日より機材を搬入し、本格的な発掘調査を開始した。

本年度は、工事区域北側約2,800㎡を調査対象とし、西側の東西に細長い地区を1地区、東側の広い地区を2地区と、2つの調査区を設定した。

5月9日より、1地区において土層や遺構の分布状況等を詳細に把握するためトレンチを設け、人力によって掘り下げていった。その結果、基本的には、耕作土以下、盤土、黄橙色地山の層序であるが、南方向に向かって地山が大きく傾斜して落ち込んでいることと、分厚い遺物包含層が存在することを確認した。5月11日に、土色の変化に細心の注意をはらいながら重機を使って表土除去を行った。翌日から人力による遺構検出を開始したが、後世の水田開発の際に削平を受けており、遺構はほとんど確認できなかった。遺物包含層の掘り込みについては、5月16日より再びトレンチを設け人力で掘り下げていった。湧水による足場の悪さに加え、日照りによる地表面の乾燥と、作業は困難な状況が続いたが、調査の進捗状況は比較的順調であった。その結果、遺物包含層上層からは瓦質土器・土師質土器・縄の羽口・スラグ、中層からは白磁・青磁・須恵器、下層からは弥生土器、石斧などの多数の貴重な資料を検出することができた。ところが、1地区調査の終盤の5月27日の集中豪雨により、調査区が完全に水没するという事態に陥った。これにより、排水に時間を要し2日間全く作業が行えなかった。周辺との標高差もあり、その後も発掘作業期間中ずっと降雨による調査区の水没や調査区内の排水、周辺住民への安全対策に悩まされることとなった。



重機による表土除去

6月6日には、地元の右田小学校6年生、徳地町の串小中学校の3年生以上の児童が発掘体験学習に訪れた。6月9日には、地元の右田中学校の生徒も発掘体験に訪れた。

6月7日に1地区の発掘調査を終了し、翌日より2地区の調査へと移っていった。1地区の時と同様にトレンチ調査を行い、土層や遺構の分布状況を把握した後、重機による表土除去を行った。しかし、当初の予想より北東側の落ち込みが激しく、地域住民の安全を考慮し、調査の進捗状況を見て2度に分けて表土除去を行うこととした。遺構については、水田化の際の削平を受け、浅いものが多いものの、弥生時代や古代の土坑をはじめ、柱穴、溝、掘立柱建物跡など多数を検出した。2地区の約半分の面積をしめる遺物包含層については、調査期間を考慮してトレンチによる調査とした。掘り込みについては、深いところで2m以上掘り下げるために、トレンチの幅や壁の角度については十分安全に配慮した。また、暑い季節であったため、作業員の健康状態にも十分気を配って調査を進めた。その結果、1地区で出土した遺物の内容に加え、古墳時代の滑石製品や古代と思われる木製品を多数検出することができた。9月6日に空中撮影を実施した。9月17日の現地説明会では、研究者の他に近郊から一般の住民や学生、生徒など多数の参加者を得た。発掘調査に対する地域の関心の高さを改めて実感した。9月19日には機材を搬出し、以降は記録作成を行った。9月29日に現地で受託者立ち会いのうえ、現場の引き渡しを行い、現地での調査はすべて終了した。

本調査では、前期のように弥生から中世にかけての貴重な資料が多数出土した。5月から始まった発掘調査は、降雨による多少の困難に見舞われたが、事故やケガもなくほぼ順調に終わることができた。これも、関係各位の多大なご理解・ご協力・ご支援によるものと感謝する。



遺構掘り込み



発掘体験学習



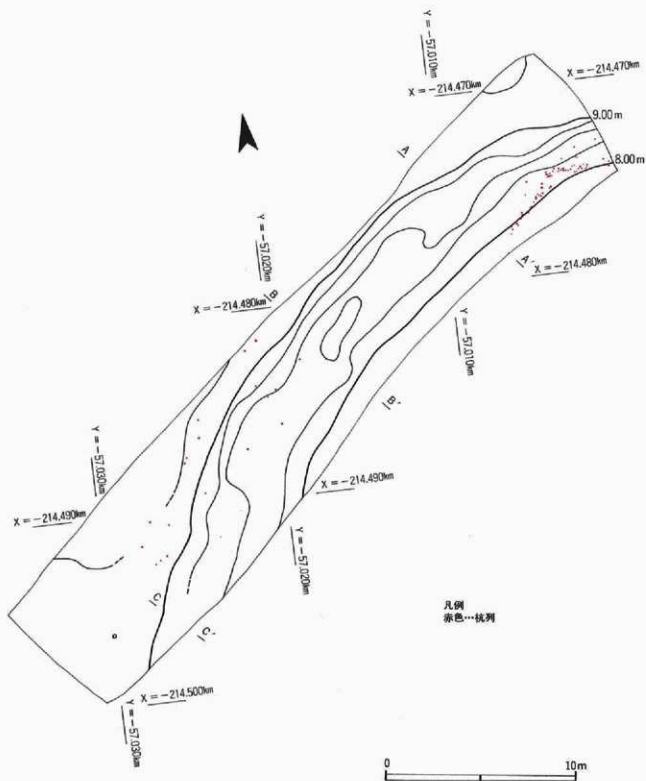
空中撮影



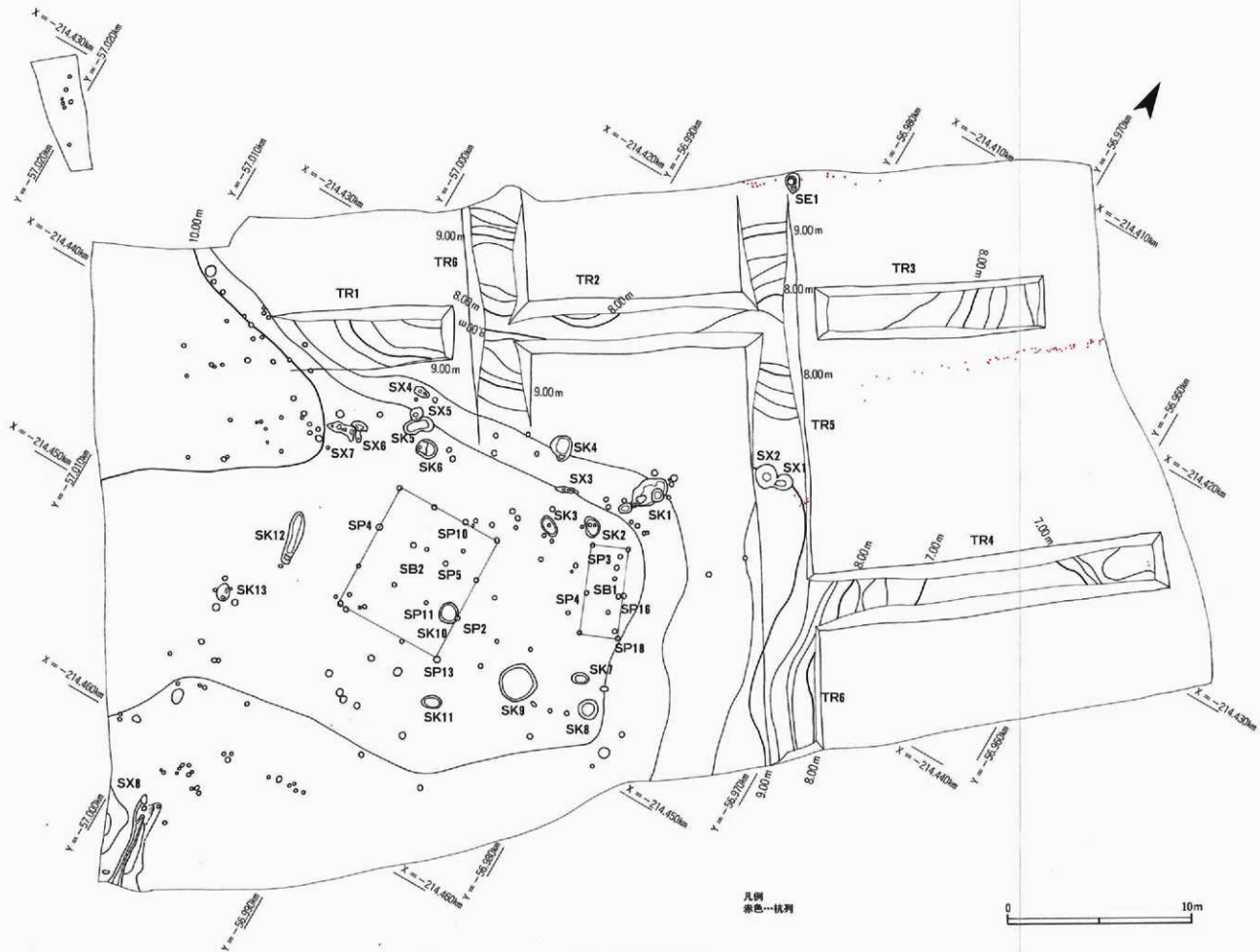
現地説明会



第2図 調査区設定図



第3図 1地区の様子



第4図 2地区の様子

Ⅲ 遺構

今回の発掘調査によって検出された遺構は、掘立柱建物2棟、土坑13基、井戸1基、溝1条、不明遺構8基、柱穴約200個である。これらの遺構は、遺跡の中央部北西から南東方向に張り出す高位部分(標高9.5m~10m)で見られるが、そのほとんどが2地区に分布する。遺構面は調査区北端付近及び北西側から東及び南東側へ張り出した状態で検出した。

各遺構の上面は、後世の水田開発により削平を受けており、当時の規模から見ればかなり浅いものになっている。特に1地区の北側は削平が著しいため、遺構の密度が希薄である。

1地区南東側及び2地区の北側~東側には、遺構面をとりまくように広い範囲で遺物包含層が認められ、同地点において河川跡を確認した。

以下に、主要な遺構を紹介する。

1 掘立柱建物

掘立柱建物は2地区において、2棟が復元できた(第4図)。建物は標高9.75mから10mに建てられている。2棟は隣接しており、棟方向は、若干の振れはあるが、ほぼ南北方向を向いている。柱穴の埋土、配置、出土遺物などから両者ともほぼ同時期のものと推定する。

SB1 (第5図 図版9)

SB1は2地区の中央に建てられた2間×1間の建物。棟方向はN23°W。桁行長4.8m、梁行長2.1mの規模をもち、6本の柱穴で構成されている。柱穴は直径22~38cm、深さ11~39cmである。SP14・46から土師器片、SP3から青磁皿が出土した(第16図100)。柱穴の埋土や遺物から、この建物は12世紀頃の建物と推定される。

SB2 (第5図 図版9)

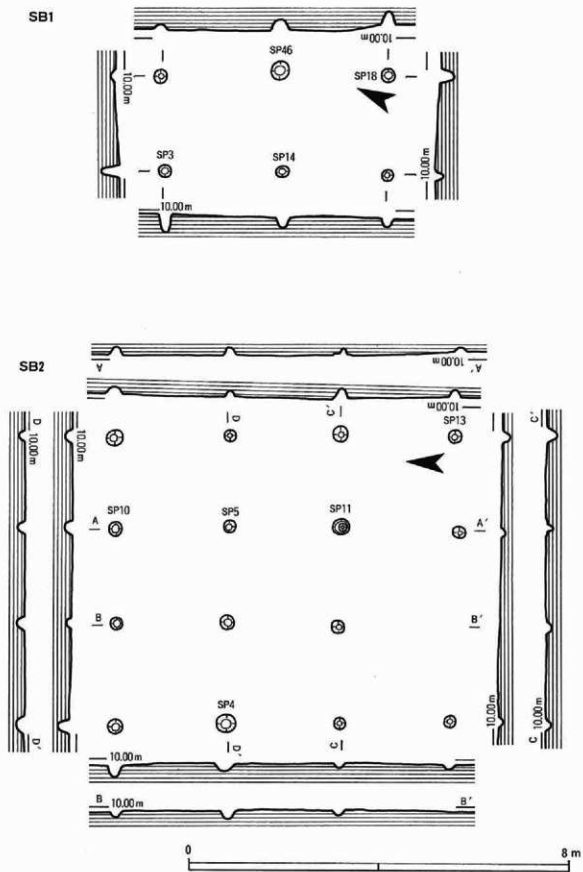
SB2は2地区の中央西寄りに位置し、SB1の西側に隣接して検出された。南側梁の柱穴1個が確認されなかったが、3間×3間の建物と考えられる。棟方向は、N1°W。桁行長7.2m、梁行長6.1mの規模をもつ。柱穴は、直径20~38cm、深さ9~26cmである。SP4・5・13から土師器片、SP11から土師器片・スラグ、SP10から土師器皿1点・土師器椀片1点出土した(第15図40・95)。柱穴の埋土や遺物より、この建物は12世紀から13世紀のものとして推定される。

2 土坑

今回の調査では、2地区において13基の土坑が検出された。土坑は、遺構面高位部分の北側~東側にかけて集中して分布する。検出された土坑の大半は、後世の開発のため削平を受けて、底面がわずかに残っているだけである。そのため出土遺物が少なく、時期や用途について不明なものが多い。平面形は、円形3基・長円形4基・不整形6基である。SK9は弥生時代の土坑である。

SK1 (第6図 図版7)

2地区中央部の緩傾斜面上に掘り込まれており、N30°Eに主軸をとる長軸230cm、短軸122cmの不整形の土坑である。深さは中央の最深部で24cm、北東側で9cmである。遺構の東側及び南西側に柱穴が掘り込まれている。埋土は灰黄褐色砂質土の単層であり、埋土中より5~40cmの扁平な礫とともに土師器皿(第15図46)・土師器椀片・土師器編(第17図116)・瓦質土器片が出土した。用途は不明である。



第 5 图 SB1·2 实测图

が、12世紀代の遺構と推定される。

SK 2 (第6図 図版7)

SK 1の南西側に隣接する。平面形は長円形である。N40°Wに主軸をとり長軸112cm、短軸74cm、深さ12cmである。底面中央付近に2個の小坑(2個とも土坑底面からの深さ8cm)が掘り込まれている。埋土は暗灰黄色土の単層であり、遺物は出土しなかった。時期は不明である。

SK 3 (第6図 図版8)

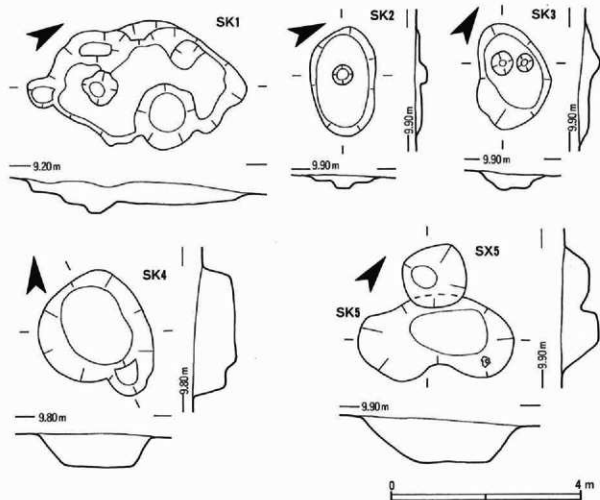
2地区中央やや南西寄りに位置し、SK 2に隣接する。N70°Wをとる長軸115cm、短軸68cm、深さ5cmの長円形の土坑である。底面中央付近に小坑(土坑底面からの深さ6cm)が掘り込まれている。埋土は暗灰黄色土の単層であり、遺物は出土しなかった。時期は不明である。

SK 4 (第6図 図版7)

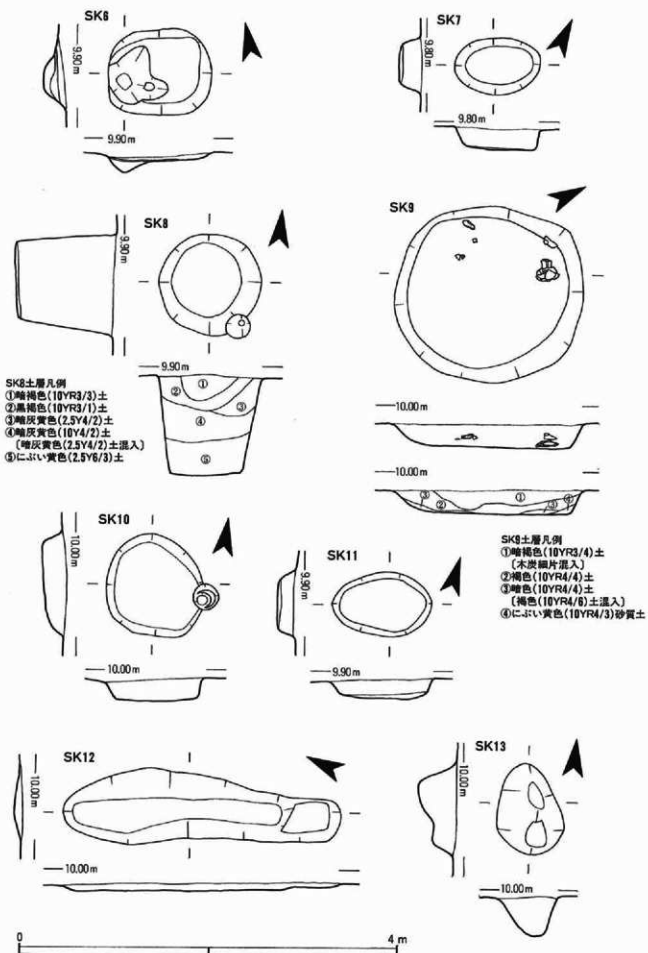
2地区中央やや西寄りに位置し、SK 3の北西側に隣接する不整形の土坑である。N20°Wに主軸をとり、長軸138cm、短軸118cm、深さ35cmである。埋土は灰黄褐色砂質土の単層であり、遺物は出土しなかった。時期は不明である。

SK 5 (第6図 図版8)

2地区中央西寄りに位置し、N50°Eに主軸をとる長軸165cm、短軸74cm、深さ38cmの不整形長円形の土



第6図 SK1・2・3・4・5 SX5実測図



第7図 SK6・7・8・9・10・11・12・13実測図

坑である。北西側でSX5を切っている。埋土は黒褐色土の単層であり、埋土中より土師器片多数とともに、土師器柄底部片5点・土師器坏底部片1点・畿内産瓦器柄片1点・白磁碗1点(第16図101)が出土した。13世紀頃の遺構と推定する。

SK6(第7図 図版8)

SK5の南東側に隣接する土坑である。ほぼ東西に主軸をとる長軸108cm、短軸90cm、平面形は隅丸長方形である。深さは西側で17cm、東側で6cm。埋土は黒褐色粘質土の単層であり、埋土中より土師器片が出土した。12世紀頃の遺構と推定する。

SK7(第7図 図版8)

2地区中央南よりに位置し、N53°Eに主軸をとる、長軸90cm、短軸60cm、深さ23cmの長円形の土坑である。埋土はオリーブ黄色砂質土の単層であり、遺物は出土しなかった。時期は不明である。

SK8(第7図 図版8)

SK7の南東側に隣接する土坑である。平面形はほぼ円形であり、長径110cm、短径106cm、深さ107cm。埋土は、暗褐色土、黒褐色土、暗灰黄色土、黒褐色土(暗灰黄色土混入)、にふい黄色土の5層である。遺物は出土しなかった。断面形は井戸の様であるが、時期や用途については不明である。

SK9(第7図 図版8)

長径200cm、短径185cm、深さ26cmのほぼ円形の土坑であり、SK8と隣接する。埋土は暗褐色土、褐色土、褐色土、にふい黄褐色砂質土の4層であり、埋土中より弥生土器壺1点(第12図6)を含む弥生土器片が出土した。本遺跡における唯一の弥生土器が出土した土坑である。遺構の用途については不明であるが、時期は弥生時代中期と推定される。遺構上位部分は削平を受け消滅しているものと考えられる。

SK10(第7図 図版8)

SK9の北西側約5mの地点に隣接する。遺構の東側を柱穴によって切られるが、長径108cm、短径103cm、深さ20cmのほぼ円形の土坑である。埋土は黄灰色土の単層であり、遺物は出土しなかった。用途及び時期は不明である。

SK11(第7図 図版6)

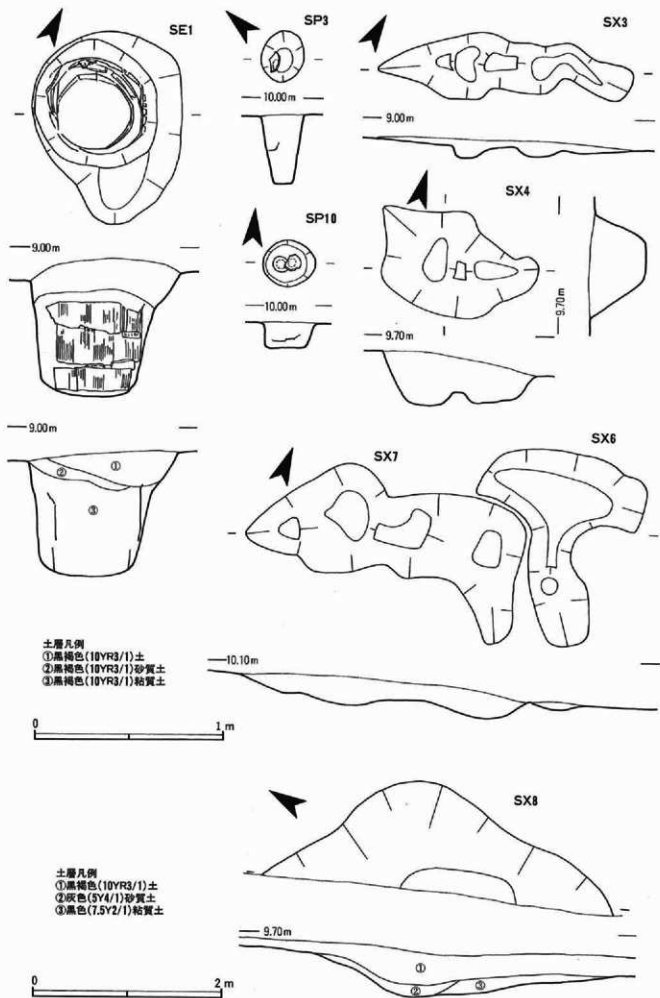
2地区南西側に位置し、N70°Eに主軸をとる長軸105cm、短軸70cm、深さ21cmの長円形の土坑である。埋土はオリーブ黄色土の単層であり、遺物は出土しなかった。時期や用途は不明である。

SK12(第7図)

2地区南西側に位置する。平面形は溝状を呈しており、N15°Eに主軸をとる長軸294cm、短軸70cm、深さは遺構の南側で3cm、北側で5cmで後世の土地利用により著しく削平を受けている。遺構の南東側で2段に掘り込まれている。埋土は黄灰色土の単層であり、埋土中より土師器・瓦質土器の小片が出土した。用途は不明であるが、15～16世紀の遺構と考えられる。

SK13(第7図 図版7)

2地区南西側に位置し、SK12に隣接する。ほぼ南北に主軸をとる長軸95cm、短軸64cm。平面形は楕円形で、深さは北側で41cmである。南側で2段に掘り込まれている。埋土は灰黄褐色砂質土の単層であり、埋土中から土師器片多数及び瓦質土器鍋片2点出土した。用途は不明であるが、15～16世



第8圖 SE1 SP3·10 SX3·4·6·7·8實測圖

紀の遺構と推定する。

3 井戸

本遺跡において確認された井戸は1基（SE1）のみである。

SE1

2地区の北端に位置にある。掘り方は南北にやや長い不整形円形で長径120cm、短径78cmである。深さ13cmのところ段があり、その下は径60cm程、深さ65cmのほぼ円筒状を呈している。底には径の異なる曲げ物が2段に置かれる。上部の曲げ物は直径46cm、高さ30cm、下部の曲げ物は直径40cm、高さ13cmである。上部曲げ物の残存状況は悪く、本来の大きさはわからない。遺物は瓦質土器こね鉢1点（第18図130）・土師器片などがある。この井戸は、15世紀頃のものと思われる。

4 柱穴

今回の調査では約200個の柱穴が発見されたが、そのほとんどが2地区に集中している。大半のものは、本来掘立柱建物を構成していたと考えられるが、建物として復元できたのは、わずかであった。ここでは、遺物の出土状況に特徴のあるものを紹介する。なお、柱穴として紹介するこれらの遺構は、地鎮祭等のような祭祀に伴う遺構である可能性もある。

SP3（第8図 図版9）

長径27cm、短径23cm、深さ36cmのほぼ円形の柱穴である。埋土は暗灰黄色土の単色であり、青磁皿1点（第16図100）が出土した。遺構の時期は12世紀代と推定する。この柱穴は、SB1を構成する。

SP10（第8図 図版9）

長径28cm、短径24cm、深さ13cmの楕円形の柱穴である。埋土は暗褐色土の単層であり、土師器皿1点（第15図40）・土師器椀底部片1点（第15図95）が出土した。遺構の時期は12～13世紀とみられる。この柱穴は、SB2を構成する。

5 不明遺構

2地区において8基の不明遺構を検出した。平面形は大半が不整形であり、傾斜地や包含層下無遺物層上面において検出され、規模、形態から流水による浸食作用により形成された可能性もあるが、遺物出土もあり、主なものについて紹介することとした。

SX3（第8図 図版10）

2地区の中央にあつてSK4の南側に隣接する。平面形は溝状を呈しており、北東から南西にのびる。断面形は浅く、2カ所に凹部がある。遺物の出土はなく、時期は不明である。規模、形態から流水の浸食により形成された可能性もある。

SX4（第8図）

2地区の北西側に位置する。平面形は不整形、深さは西側で27cmある。埋土は暗褐色土の単層であるが、埋土中に若干の焼土が混入していた。土師器椀片他多数の土師器片が出土した。時期は13世紀頃と考えられる。

SX6・7（第8図 図版10）

SX6・7は2地区の北西側に位置し、SX4の南西4mのところ位置し、平面形は共に不整形を呈する。SX6からの遺物の出土はなかったが、SX7の埋土中から土師器椀片・坏片など多量の

土師器片が出土した。SX7は13世紀頃の遺構と推定する。

SX8 (第8図 図版10)

2地区の南西端に位置し、遺構の東側のみ検出した。平面形は不整形とみられ、深さは中央西端で43cmである。埋土は黒褐色土、灰色砂質土、黒色粘質土の3層であり、土師器椀片・スラグなどが出土した。11~12世紀の遺構と考えられるが、埋土、平面形からみると、1地区南側に広がる河川跡とみられる低位地の一部である可能性もある。

6 河川跡

本遺跡の遺構面の西側(1地区の大半)及び東・北側(2地区の中央より北側・東側)の広い範囲においては、掘り込みを伴う遺構は検出されなかったが、同範囲において遺物包含層の堆積を確認した。1地区については遺物包含層の掘り込みを全面的に行い、2地区についてはトレンチ調査(TR1~7・第10図・図版2)により、遺物の採集及び旧地形の把握に努めた。以下に、1・2地区において検出された河川跡について、検出状況及び土層の概要を紹介する。

1地区検出状況(第3図 図版2)

標高約9m~7.75mで北側に広がる遺構面から続く無遺物層があり、調査区北側及び北西側で高位、南東側で低位になり急傾斜で南に広がる溝状を呈している。同地区では、旧地形の確認は7m×40mの範囲に限られたが、旧地形及び土層の堆積状況から旧河川の一部及びその北岸の一部と推定した。最深部は標高7.8mで、岸からの深さは最大1.2m程度であるが南東方向に急激に深くなる。

旧河川の北西岸周辺(標高8.5~9m)に打ち込まれた杭多数を検出した。また、旧河川の北東側(標高8m~8.5m)では人頭大の礎多数とともに、杭列が密集した状態(図版5)で検出された。杭列は約7m残存していた。杭は径4~6cm程度の樹皮つきの小木の先端を加工したもので、残りのよいもので長さは50~60cm程度である。これらは用途は明確ではないが、河川北岸周辺の護岸施設の可能性も考えられる。

遺物は、表土から旧河川最下層にわたって出土する。上位層より中世土器を主体とする層、古代土器を主体とする層、弥生土器を主体とする層の順に堆積しており、各層の土器とも器面の摩耗が少なく破片も大きいことから、原位置をあまり移動していないものと考えられる。

1地区土層(第9図)

詳細な土層の堆積状況は、第9図の土層断面図に譲り、概略的な堆積状況について記述する。

調査区中央部の堆積状況は、次の通りである。上位層には暗褐色粘質土が5~20cm位堆積し、瓦質土器など、14~15世紀頃の遺物が出土する。中位層に黒褐色土または黒褐色弱粘質土が最大30cm程度堆積し、土師器皿・椀、瓦質土器羽釜など、12~13世紀頃の遺物及び多量の木製品、フイコ羽口片、スラグ等が出土する。中位層の下位部分は帯水層であり、木製品の残存状況は良好である。調査区北西側の斜面状において須恵器高環が出土した。高環の時期は6世紀後半と推定する。帯水層である下位には灰褐色の砂が堆積し、弥生時代中期~後半の土器片が出土する。遺物の破片は大きく、器面の摩耗も少ない。

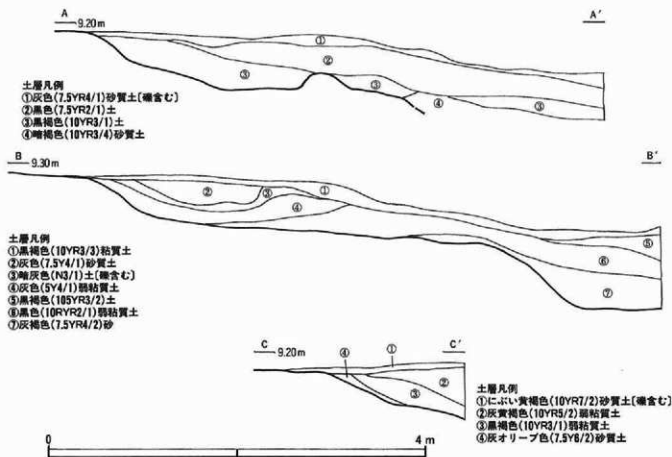
調査区東側(図版5)は東側集落に近い場所であり、上層に灰色砂質土があり、中世の瓦質土器片などが出土する。この下に黒色土層があり、北側に浅く、南側で最大22~35cm堆積する。この層から

は土師器椀・皿、瓦質土器羽釜、磁器など12～13世紀の土器、フイゴ羽口やスラグなど金属製品生産に関係する遺物が多数出土した。これらの遺物の破片は大きく摩耗も少ない。近い場所から投棄された可能性も考えられる。この層の下の黒褐色土層（滞水層部分）からは、多量の本製品が出土した。この下（滞水層）、暗褐色砂質土である。植物遺体を多量に含み、遺物は弥生土器高坏片及び壺片などがあり、器面の摩耗は割合少ない。

2 地区検出状況（第4図 図版2・12）

トレンチ調査により、標高9.75m以下において遺構面から続く無遺物層上面まで検出した。その結果、河川の規模は、調査区北西側（TR7）で幅約11m（北西～南東方向）、最深部の標高は8m。調査区北側（TR5）で幅約12m（北西～南東方向）、最深部の標高7.75m。調査区東側（TR4・6）では、幅約16m（北東～南西方向）、最深部の標高約7mである。岸からの深さは、最大で2mを超える。この河川は、調査区北西端から北東方向に流下し、北側で南東に屈曲する（TR3）。遺物は、河川跡上層から最下層にわたって出土し、上位層より中世土器を主体とする層、古代土器を主体とする層、弥生土器を主体とする層の順に堆積する。各層の土器は器面の摩耗が少なく破片も大きいことから、居住地区が近くにあったと考えられる。人為的に投棄された可能性も考えられる。

調査区北側（旧河川北岸）付近、調査区北東側（旧河川北東岸最上層部）で枕杭を検出した。前者は、長さ約8m残存している。杭は径4～6cm程度の樹皮つきの小木の先端を加工したもので、残りのよいもので長さは50cm程度である。後者は、13m程度残存し杭間は北東側で狭く、南西側で広い。



第9図 1地区土層断面図

杭は径4～5cm程度で残りのよいものは長さは40cm程度である。杭を打ち込み始めた面は、平安時代後半～鎌倉時代の遺物を含む層である。調査区中央付近(旧河川西岸)及び調査区南東側(旧河川東岸)においても杭が数本打ち込まれていた。杭列の用途は明確でないが、出土位置からみて道の土手の補強または土地境界を示す役割などが考えられる。

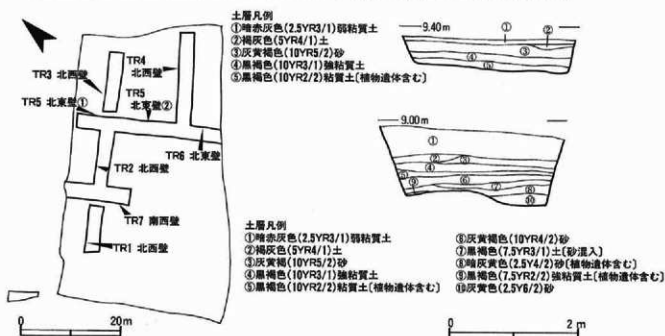
2地区土層(第10・11図)

旧河川内の土層の堆積状況は、全域にわたってほぼ同様である。上位層においても周辺の湧水層の存在により滞水層をなしており、植物遺体、木製品等の保存状況は極めて良好である。

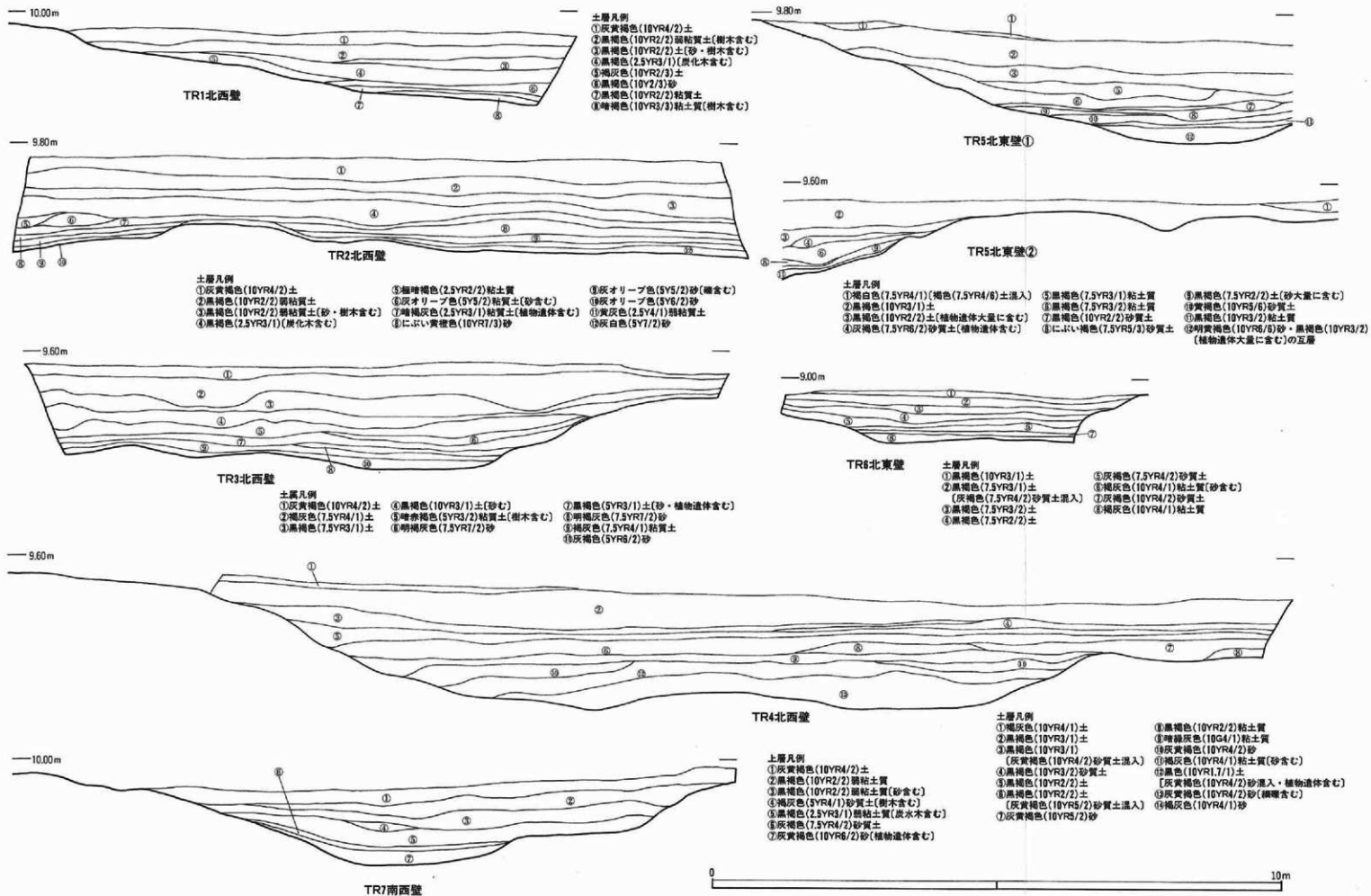
上層の灰黄褐色土・褐灰色土からは、土師器、瓦質土器など中世を中心とする遺物が出土する。その下に、黒褐色土または黒褐色弱粘質土があり、旧河川北西側で10～35cm、東側で20～75cm程度堆積しており、遺物は、土師器片、瓦質土器片、磁器片など12～13世紀頃の土器を中心とする。この時期の土器類は、調査区北西～北側(TR1・2・5・7)で多量に出土し、破片は大きいものが多く、摩耗も少ない。北東側及び東側(TR3・4)では小片が目立つ。この下に黒褐色弱粘質土(砂を含む)があり、自然木、松や梅の種や下駄、槌の子などの木製品や土師器片が出土する。

中位層は砂が混じる黒褐色土が、旧河川北側(TR1・2・3・5・7)で20～40cm程度、東側(TR4)で5～40cm程度堆積し、多量の自然木を多量に含6世紀後半の須恵器片が出土する。須恵器は破片は大きく、摩耗も少ない。また、河川北西岸付近(TR5北西側・TR2・TR7北西側)において多量に出土している。この下に植物遺体を多量に含む黒褐色土または黒褐色粘質土がある。

下位層には、全体的には有機物を多量に含む砂と黒褐色または褐灰色粘質土の互層が広がる。これらの層から弥生土器が多数出土した。特に、調査区南西側の集落に面する川岸近く(TR6・TR7南東側斜面上)で多量に出土する。この事実を、祭祀・投棄の両面から考える必要があろう。



第10図 2地区トレンチ土層断面図(1)



第11図 2地区トレンチ土層断面図(2)

IV 遺物

調査の結果、弥生土器・須恵器・土師器・瓦質土器・土製品・木製品・鉄製品・石製品などの遺物が出土した。時期的には、古代のものが多く、弥生土器や須恵器など遺存度の高いものも多い。遺構に伴う遺物も多数出土したが、土器片や摩滅の激しい細片が多く図面に起こしたものは少ない。したがって、掲載しているものの大半は遺物包含層から出土したものである。以下、主な遺物を異種ごとに取り上げて簡単に説明する。なお、個々の遺物の観察表は章末にまとめて掲げる。

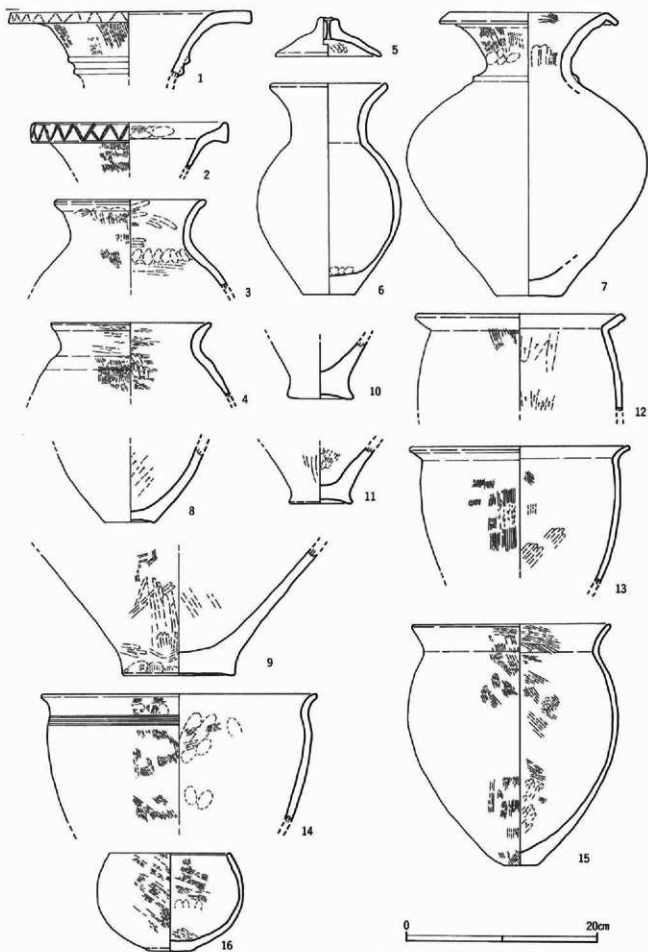
1 土器・磁器類 (第12～18図、1～132)

1～18は弥生土器で、中期の土器が最も多く、1・2両地区から出土している。1～7はすべて壺(5は壺蓋)である。1・2は口縁端部外面に山形文様が施されている。1は頸部に2条の貼り付け突帯が施されている。2は口縁端部が上下にわずかに肥厚されている。3・4は胴部が強く張った短頸の壺である。口縁端部は丸く終わる。5は壺用の蓋と思われる。天井部四方向に乳頭状の突起をもち、穿孔がある。6は口頸がゆるやかに外反して開いている。7は口縁部が朝顔状に大きく開き、口縁端部は下垂する。頸部に1条の貼り付け突帯が施されている。8・9は壺の底部で、10・11は甕の底部である。底部はいずれも上げ底である。10～15はすべて甕である。12は口縁部が「く」の字状に屈曲する。頸部内面にはっきりとした稜をもつ。13は口縁部が屈曲気味に外反する。胴部の張り出しは小さい。頸部内面にはっきりとした稜をもつ。14の口縁部は短く外反する。外面にへら状工具による3条の沈線をもつ。15の口縁部はゆるやかに外反する。胴部の張り出しはやや大きい。16・17はいずれも鉢である。16の口縁は内傾し、胴部は大きく張り出す。17の口縁部は短く屈曲する。口縁とその下の突帯はいずれも貼り付けである。突帯は連鎖突帯で、貝殻の背か布の上からの指頭によって文様が施されている。18は高環の脚部で「ハ」の字状に開く。

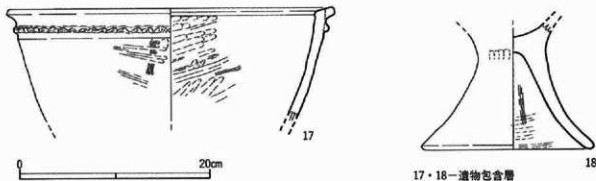
19～39は須恵器で、20以外はすべて2地区遺物包含層より出土した。多少の時期のずれはあるものの、概ね6世紀後半の所産と判断してよいであろう。19・20は高環の脚部である。19は三方に2段の透かし孔がある。21～24は坏蓋である。21は天井部に扁平のつまみがつく。25～36は坏身である。37・38は短頸の甕である。37口縁端部は折り返して玉縁状をなす。38は口縁端部に面をもち、下端をわずかにつまみ出す。39は甕である。胴部中位外面に貝殻による刺突文を施す。

40～99は土師器で、遺物の中でもっとも多く出土した。40～65はすべて小皿で、12世紀から13世紀にかけてのものである。66～81、94～99はすべて椀で、高台や口縁の形状や胎土によって11世紀から13世紀まで時期幅がある。99の内面はナデ調整後、磨き調整(暗文)を施している。82～85、93は坏である。すべて内外面回転ナデ調整で、底部は回転糸切りである。86～88は脚付き皿で、脚は貼り付けである。89～92は台付き皿である。89・90は底部に穿孔がある。

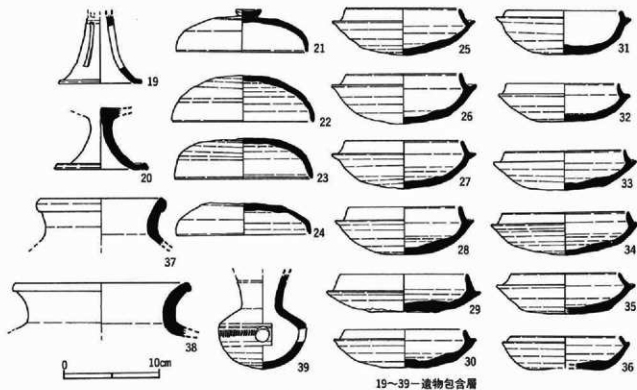
100～114は磁器で、内外面釉薬を施す。100・110・111が皿でそれ以外はすべて椀である。100・102～106・112が青磁でそれ以外は白磁である。100・101は共に内面に劃華文をもつ。102は外面に稚拙な蓮弁文、見込みに「玉」字状の陽出文がみられる。103は外面に鎮蓮弁文をもつ。104・106は内面に花文をもつ。105は内面底部に蛇の目軸刺ぎを施す。107～109は玉縁の白磁椀である。110の外面底面に墨書あり。



第12图 弥生土器实测图① 6-SK9, 1~5·7~16-遺物包含層



第13図 弥生土器実測図②



第14図 須恵器実測図

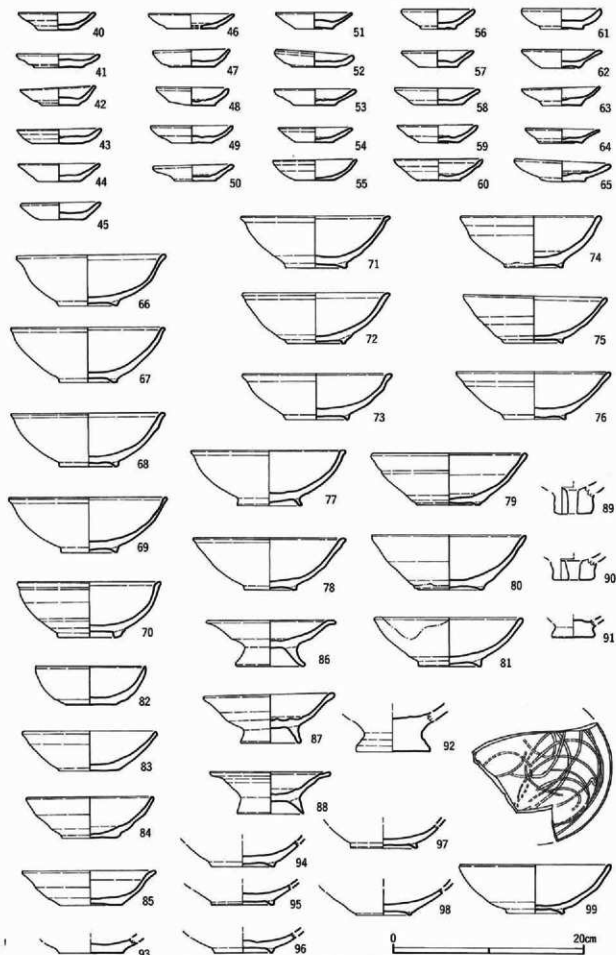
115～132は瓦質土器で、内外面に調整の痕が顕著に残るものがほとんどである。115～117は口縁部が外反する鍋である。118～124は羽釜で鈎はすべて貼り付けである。124は足付きである。126・127は播り鉢で、127は内面に6本を単位とする卸し目がみられる。128～131は捏ね鉢で、128～130は注口をもつ。132は甕で口縁部は大きく外反する。胴部は強く張り出す。

2 土製品 (第19図、133～142)

133～140は輪の羽口で、いずれも先端部は溶融・発泡し、スラグが付着する。時期は未定であるが、中世の羽口と比べると小振りである。また、すべて1地区遺物包含層東側の中層から出土しており、同じ層から土師器碗が多数出土していたことを考慮すると12～13世紀頃と推定することができる。141は土師質の土玉である。孔は貫通している。142は指頭正痕を残す土師質の管状土錘である。

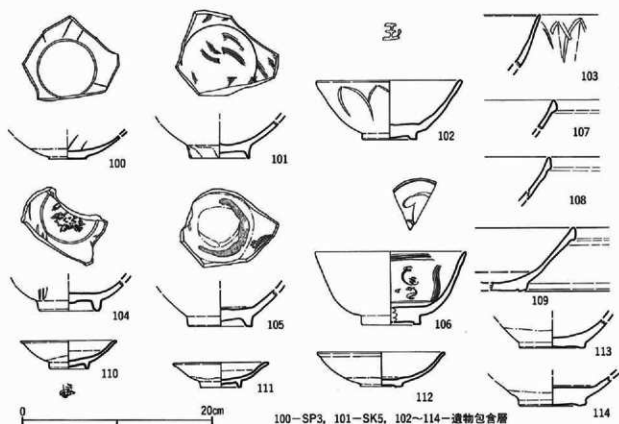
3 金属製品 (第20図、143～147)

143は永楽通寶である。正規銭に比べやや小型で軽量なため、模倣銭の可能性もある。模倣銭であれ

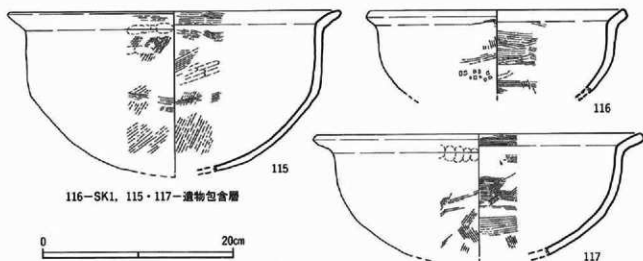


第15图 土師器実測図

40・95-SP10, 46-SK1, 93・97-SD1, 94-SP7
 96-SK6, 98-SX8, 41~45・47~92・99-遺物包含層



第16図 磁器実測図

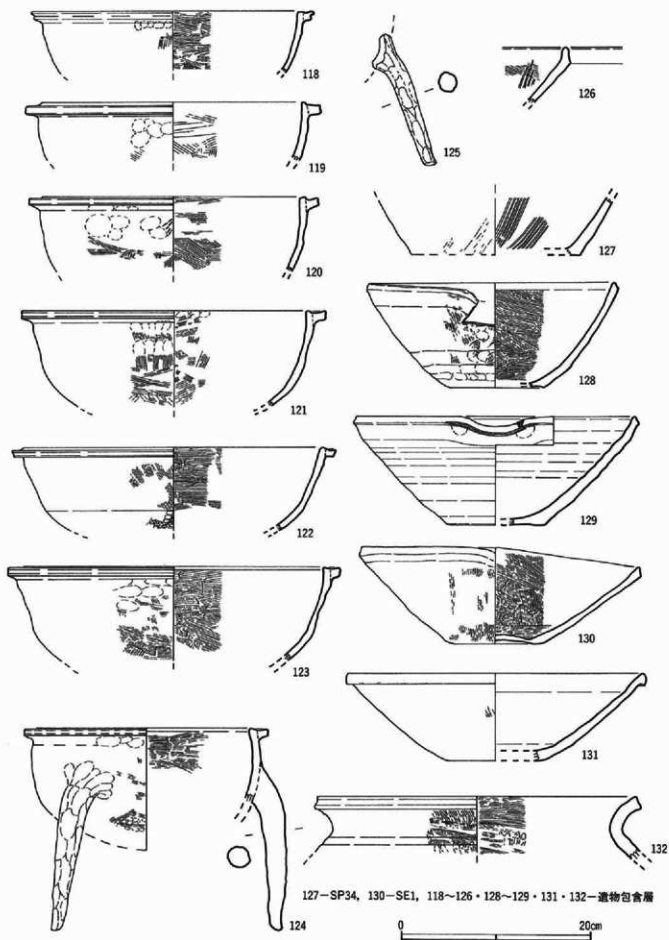


第17図 土師器・瓦質土器実測図

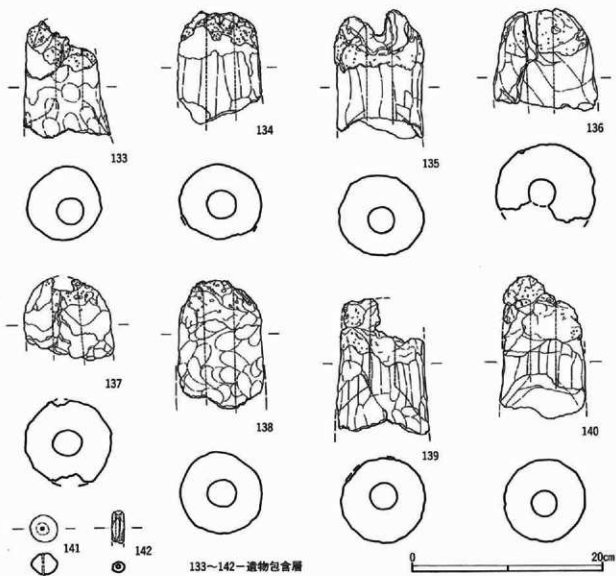
ば時期は下り、中世末から近世初頭となる。144は鉄釘、145・146は楔で、いずれも鍛造品と思われる。147は鉄斧で、基部に袋状の膨らみがある。

4 木製品 (第21・22図、148~167)

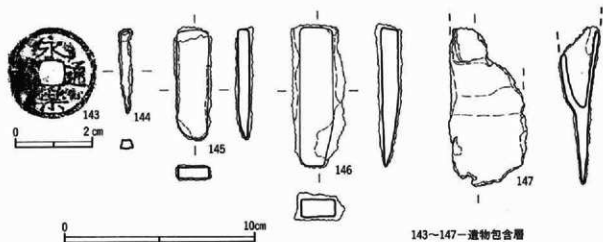
木製品はすべて2地区遺物包含層の上層と中層から出土している。148~151は木鐺(櫛の子)で丸木の両端を切断した後、中央部に向かって削りだし、くびれている。159~167は下駄で、すべて一木通歯である。穿孔が残っているものが多い。160は使用による摩擦で親指の使用痕が確認できるため、



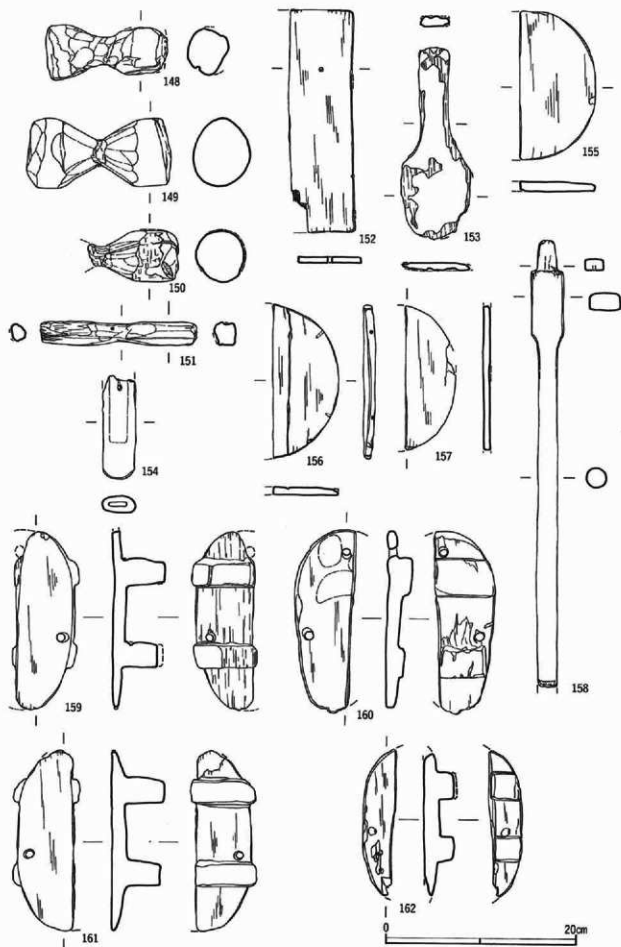
第18圖 瓦質土器実測図



第19図 土製品実測図

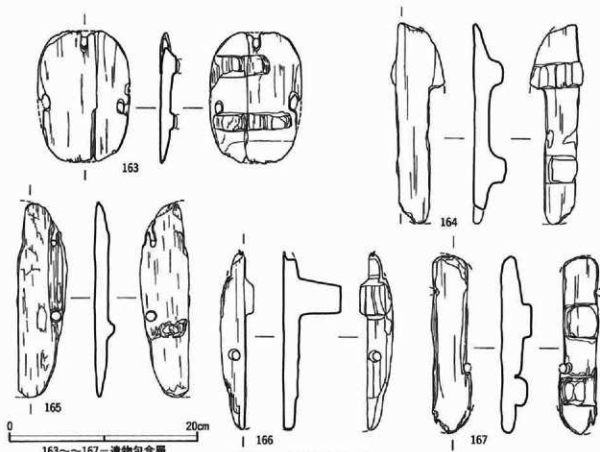


第20図 鉄製品実測図

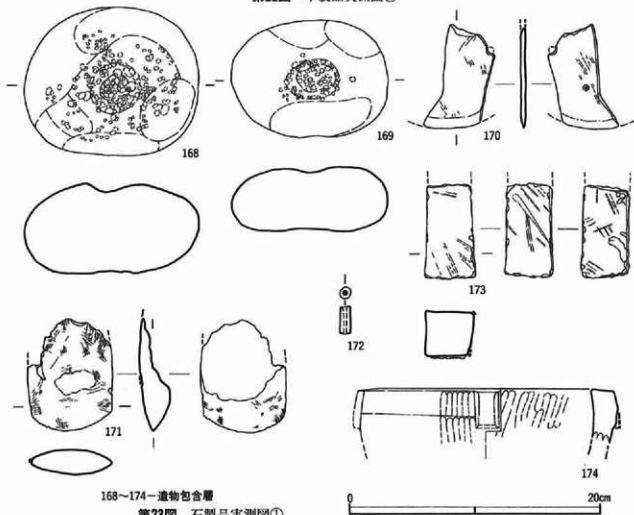


第21図 木製品実測図①

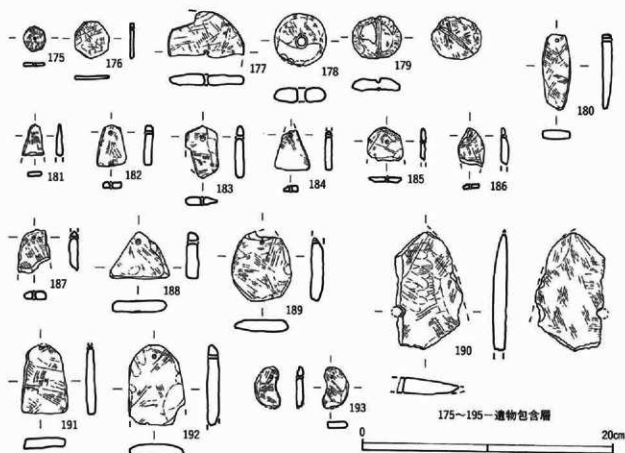
148~162-遺物包含層



第22図 木製品実測図②



第23図 石製品実測図①



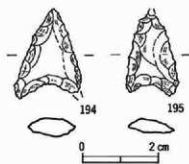
第24図 石製品実測図②

右足用の下駄であると判断できる。

5 石製品 (第23・24図、168～195)

168・169は閃緑岩の円礫を利用したたたき石で、側面三方に敲打痕がみられ、大きな窪みが上・下面に確認できる。170は大型石包丁で、石材は泥岩で穿孔1ヶ所(破損)と未完の穿孔1ヶ所をもつ。171は磨製の蛤刃石斧で、石材は凝灰岩である。172は完形の碧玉製の管玉で、器面は丁寧に研磨されている。174～193はすべて滑石製品で、大半が2地区の遺物包含層

の中層から出土したものである。174は口縁部の四方に方形の突起の付いた石鍋である。178は紡錘車である。中央部には両側からの穿孔を施す。179は石錘と思われ、表裏に方向の違う削った溝がある。断面は台形を呈し、表面には製作時の条痕が認められる。190は大型の滑石製模造品であるが、欠損部が多く全体像は復元できない。両側からの穿孔を確認するが破損している。175～176、180～193はすべて滑石製の模造品である。全体的に丁寧に整形し厚さも均一で両面とも縦横の擦痕がみられるものが多い。形態の種類は、有孔円盤・剣形・盾形・鐮形・勾玉形に分けられるが、明確に何を模造したものが示せないものもある。194・195は石鐮である。いずれも凹基無茎式で、周縁の粗い剝離の後、刃部は細かい調整を施している。石材は珪質片岩である。



第1表 土器・土製品観察表(1)

調査・観察 番号	器 形	注 ()は定価	寸 法	特 徴	粘土・成 色	色 調 (内面)	色 調 (外面)	時 期	出土 地点
1	弥生土器 甕	口徑 25.7		外側口縁部に瓦眼による山原文有り。上部に縦方向のハケ調整の痕が残り、外面陶加に2条の縦り斜線が施されている。内面は滑らかで、底面不明。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	淡黄緑	淡黄緑	弥生中期	1地区 包含層 下層
2	弥生土器 甕	口徑 (20.6)		外側口縁部にハケ調整による山形押文がある。外面はハケ調整後ナデで一部滑している。内側口縁部はナデ。指ナデ痕が残る。内面は口縁部より下部は縦割条のため調整不明。外縁はハケ調整で、ナデが滑っている。上部に指筋が残り、口縁部は滑り調整後、磨き調整。内面陶加には指ナデ痕有り。口縁部は滑り調整した後、ナデで滑している。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	におい黄	におい黄	弥生中期	2地区 包含層 下層
3	弥生土器 甕	口徑 (16.1)		外側口縁部はハケ調整。ナデで滑している。内面は口縁部より下部は縦割条のため調整不明。外縁はハケ調整で、ナデが滑っている。上部に指筋が残り、口縁部は滑り調整した後、ナデで滑している。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	灰褐色	灰褐色	弥生中期	2地区 包含層 下層
4	弥生土器 甕	口徑 (16.8)		外側口縁部はハケ調整。ナデで滑している。内面は口縁部より下部は縦割条のため調整不明。外縁はハケ調整で、ナデが滑っている。上部に指筋が残り、口縁部は滑り調整した後、ナデで滑している。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	灰褐色	黒褐色	弥生後期	2地区 包含層 下層
5	弥生土器 甕	底径 11.2 器高 4.1		外面は滑らかで調整不明である。蓋中央部に穴があいており、蓋を差しこんでいたと考えられる。天井部四方に孔眼状の穴が空いている。内面に磨きの痕が滑らすに施される。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	におい黄	におい黄	弥生	1地区 包含層 下層
6	弥生土器 甕	口徑 11.8 底径 5.4 器高 2.7		口縁部は口縁部だけに大きく、口縁部は滑り調整。外面は口縁部は滑り調整不明。内面中位ハケ調整の痕が残り、内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。上部はハケ調整で、ナデが滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	におい黄	におい黄	弥生中期	2地区 包含層 SK 9
7	弥生土器 甕	底径 7.0 器高 29.8		外面は口縁部だけに大きく、口縁部は滑り調整。外面は口縁部は滑り調整不明。内面中位ハケ調整の痕が残り、内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	灰褐色	褐色	弥生中期	1地区 包含層 下層
8	弥生土器 甕	底径 5.0		外面は口縁部だけに大きく、口縁部は滑り調整。外面は口縁部は滑り調整不明。内面中位ハケ調整の痕が残り、内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	におい黄	におい黄	弥生中期	1地区 包含層 下層
9	弥生土器 甕	底径 (11.9)		外面は口縁部だけに大きく、口縁部は滑り調整。外面は口縁部は滑り調整不明。内面中位ハケ調整の痕が残り、内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	におい黄	におい黄	弥生前期末 〜中期	2地区 包含層 下層
10	弥生土器 甕	底径 6.8		外面ハケ調整。内面滑り調整。底面のみ残存。上げ底の底面。	粗砂粒を多く含む やや灰褐色	灰褐色	黄	弥生中期	2地区 包含層 下層
11	弥生土器 甕	底径 6.5		外面ハケ調整。内面ハケ調整。底面のみ残存。上げ底の底面。	粗砂粒を多く含む やや灰褐色	黄	灰褐色	弥生中期	2地区 包含層 下層
12	弥生土器 甕	口徑 (21.2)		口縁部は口縁部だけに大きく、口縁部は滑り調整。外面は口縁部は滑り調整不明。内面中位ハケ調整の痕が残り、内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を多く含む やや灰褐色	黄	黄	弥生中期 〜中期後半	2地区 包含層 下層
13	弥生土器 甕	口徑 23.2		口縁部は口縁部だけに大きく、口縁部は滑り調整。外面は口縁部は滑り調整不明。内面中位ハケ調整の痕が残り、内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	明褐色	明褐色	弥生中期	1地区 包含層 下層
14	弥生土器 甕	口徑 (29.1)		口縁部は口縁部だけに大きく、口縁部は滑り調整。外面は口縁部は滑り調整不明。内面中位ハケ調整の痕が残り、内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	におい黄	におい黄	弥生前期 〜中期	1地区 包含層 下層
15	弥生土器 甕	口徑 20.9 底径 3.8 器高 25.2		口縁部は口縁部だけに大きく、口縁部は滑り調整。外面は口縁部は滑り調整不明。内面中位ハケ調整の痕が残り、内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	灰褐色	灰褐色	弥生後期	2地区 包含層 下層
16	弥生土器 甕	口徑 (12.6) 底径 (5.9) 器高 10.3		口縁部は口縁部だけに大きく、口縁部は滑り調整。外面は口縁部は滑り調整不明。内面中位ハケ調整の痕が残り、内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	淡黄	淡黄	弥生中期	2地区 包含層 下層
17	弥生土器 甕	口徑 (31.2)		口縁部は口縁部だけに大きく、口縁部は滑り調整。外面は口縁部は滑り調整不明。内面中位ハケ調整の痕が残り、内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	淡黄	淡黄	弥生中期	2地区 包含層 下層
18	弥生土器 甕	底径 18.0		口縁部は口縁部だけに大きく、口縁部は滑り調整。外面は口縁部は滑り調整不明。内面中位ハケ調整の痕が残り、内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	明褐色	明褐色	弥生	2地区 包含層 下層
19	須恵器 甕	底径 (8.7) 器高 (8.7)		外面部分欠失。磨きのみ残存。内外面回転ナデ。自然軸有り。3方向に通かた孔有り。(2段) 中位に1条の穴残存有り。	粗砂粒を少量含む 灰褐色	灰(黒)	オリーブ黒	6 C 後半	2地区 包含層 中層
20	須恵器 高弁	底径 (9.8)		外面ハケ調整。弁の部分は欠失して磨きのみ残存。	粗砂粒を少量含む 灰褐色	灰白	灰	6 C 後半	1地区 包含層 中層
21	須恵器 環	口徑 13.8 器高 4.5 弁の長さ2.7		磨き調整。外側口縁部は滑り調整。外面と蓋から蓋部までハケ調整。口縁部は滑り調整。内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	灰	灰	6 C 後半	2地区 包含層 中層
22	須恵器 環	口徑 (14.6)		磨き調整。外側口縁部は滑り調整。外面と蓋から蓋部までハケ調整。口縁部は滑り調整。内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を少量含む 灰褐色	灰	灰	6 C 後半	2地区 包含層 中層
23	須恵器 環	口徑 14.5 器高 4.3		磨き調整。外側口縁部は滑り調整。外面と蓋から蓋部までハケ調整。口縁部は滑り調整。内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	灰	灰	6 C 後半	2地区 包含層 中層
24	須恵器 環	口徑 14.1 器高 3.5		磨き調整。外側口縁部は滑り調整。外面と蓋から蓋部までハケ調整。口縁部は滑り調整。内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を少量含む 灰褐色	灰	灰	6 C 後半	2地区 包含層 中層
25	須恵器 環	口徑 12.0 受部径 (5.9) 器高 5.0		磨き調整。外側口縁部は滑り調整。外面と蓋から蓋部までハケ調整。口縁部は滑り調整。内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	灰褐色	灰褐色	6 C 後半	2地区 包含層 中層
26	須恵器 環	口徑 12.1 受部径 15.3 器高 5.3		磨き調整。外側口縁部は滑り調整。外面と蓋から蓋部までハケ調整。口縁部は滑り調整。内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	灰褐色	灰褐色	6 C 後半	2地区 包含層 中層
27	須恵器 環	口徑 12.0 受部径 15.3 器高 5.3		磨き調整。外側口縁部は滑り調整。外面と蓋から蓋部までハケ調整。口縁部は滑り調整。内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を少量含む 灰褐色	灰	灰	6 C 後半	2地区 包含層 中層
28	須恵器 環	口徑 (11.8) 受部径 (12.5) 器高 4.5		磨き調整。外側口縁部は滑り調整。外面と蓋から蓋部までハケ調整。口縁部は滑り調整。内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を多く含む 灰褐色	灰	灰	6 C 後半	2地区 包含層 中層
29	須恵器 環	口徑 (13.3) 受部径 (16.3) 器高 3.9		磨き調整。外側口縁部は滑り調整。外面と蓋から蓋部までハケ調整。口縁部は滑り調整。内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を少量含む 灰褐色	灰	灰	6 C 後半	2地区 包含層 中層
30	須恵器 環	口徑 (12.6) 受部径 (15.1) 器高 3.9		磨き調整。外側口縁部は滑り調整。外面と蓋から蓋部までハケ調整。口縁部は滑り調整。内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を少量含む 灰褐色	灰(赤土)	灰(赤土)	6 C 後半	2地区 包含層 中層
31	須恵器 環	口徑 11.9 受部径 14.0 器高 4.6		磨き調整。外側口縁部は滑り調整。外面と蓋から蓋部までハケ調整。口縁部は滑り調整。内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を少量含む 灰褐色	灰褐色	灰白	6 C 後半	2地区 包含層 中層
32	須恵器 環	口徑 11.7 受部径 13.7 器高 4.6		磨き調整。外側口縁部は滑り調整。外面と蓋から蓋部までハケ調整。口縁部は滑り調整。内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を少量含む 灰褐色	灰	灰	6 C 後半	2地区 包含層 中層
33	須恵器 環	口徑 12.5 受部径 (16.3) 器高 4.1		磨き調整。外側口縁部は滑り調整。外面と蓋から蓋部までハケ調整。口縁部は滑り調整。内面は口縁部は滑り調整。ナデで滑っている。磨きの痕が滑らすに施される。底面にはタタキ痕がある。	粗砂粒を少量含む 灰褐色	灰	灰	6 C 後半	2地区 包含層 中層

第2表 土器・土製品観察表(2)

34	須恵器 坏身	口径 全高 底径 器高	(13.1) (15.5) 4.5 4.5	外面底部は回転へり割り。その他の外面、内面は回転ナシ。内面底部中央部は一部凹状と停止ナシ有り。	滑 砂粒多く含む 灰質	青灰	青灰	6 C 後半	2地区 包含層	中層
35	須恵器 坏身	口径 全高 底径 器高	(14.4) (16.4) 4.2 4.2	縁部右回転。外面底部回転へり割り。その他の外面回転ナシ。外面底部停止ナシ。その他の内面回転ナシ。	滑 砂粒を多く含 む灰質	灰	灰	6 C 後半	2地区 包含層	中層
36	須恵器 坏身	口径 全高 底径 器高	(10.4) (12.3) 2.9 2.9	縁部右回転。外面底部回転へり割り。その他の外面回転ナシ。内面回転ナシ。	滑 細粒多量に含 む灰質	灰	灰	6 C 後半	2地区 包含層	中層
37	須恵器 甕	口径	(12.6)	口縁部は、折り返して厚い玉縁状をなす。内面肩部に当て具痕有り。口縁部内外面は回転ナシ。	粗 細粒を少量含 む灰質	灰	灰	6 C 後半	2地区 包含層	中層
38	須恵器 甕	口径	(18.0)	口縁部部に圓をもも、下端をおおかに折め下方につきまみ流す。口縁部内外面は回転ナシ。	粗 細粒を少量含 む灰質	灰	灰	6 C 後半	2地区 包含層	中層
39	須恵器 甕	器高	(9.8)	縁部右回転。各部径 9cm (最大)。内面回転ナシ。外面底部回転へり割り。その他の外面回転ナシ。各部中心に目線による斜文有り。上部欠失。	粗 砂粒を少量含 む平や灰質	灰	灰	6 C 後半	2地区 包含層	中層
40	土師器 甕	口径 底径 器高	7.6 4.0 1.9	外面底部回転系切り。内外面は回転ナシ。	粗 砂粒少量含む 平や灰質	浅黄緑	浅黄緑	13 C	2地区 包含層	上層
41	土師器 甕	口径 底径 器高	8.4 5.0 1.6	縁部右回転。外面底部回転系切り。内外面回転ナシ。	粗 細粒少量含む 平や灰質	灰白	灰白	12 C	1地区 包含層	上層
42	土師器 甕	口径 底径 器高	7.6 4.0 1.9	縁部右回転。外面底部回転系切り。内外面回転ナシ。	粗 細粒少量含む 平や灰質	浅黄緑	浅黄緑	13 C	1地区 包含層	上層
43	土師器 甕	口径 底径 器高	5.8 1.6 1.6	回転系切り内外面ナシ調整	粗 砂粒多く含む 平や灰質	灰白	灰白	12 C	2地区 包含層	上層
44	土師器 甕	口径 底径 器高	(8.2) (14.4) 1.9 1.9	縁部右回転。外面底部回転系切り。腹目痕有り。内外面は回転ナシ。	粗 細粒少量含む 平や灰質	浅黄緑	浅黄緑	13 C	2地区 包含層	上層
45	土師器 甕	口径 底径 器高	8.1 4.6 1.8	外面底部回転系切り。内外面は回転ナシ。	粗 細粒少量含む 灰質	灰白	灰白	12 C	2地区 包含層	上層
46	土師器 甕	口径 底径 器高	(8.8) (5.2) 1.6 1.6	回転系切り。内外面は回転ナシ。	粗 砂粒少量含む 灰質	灰白	灰白	12 C	2地区 S K 1	
47	土師器 甕	口径 底径 器高	7.6 4.0 1.8	外面底部回転系切り。内外面回転ナシ。	粗 細粒多量に含 む平や灰質	灰白	灰白	13 C	1地区 包含層	上層
48	土師器 甕	口径 底径 器高	7.6 4.7 1.9	縁部右回転。外面底部回転系切り。内外面は回転ナシ。	粗 細粒少量含む 平や灰質	浅黄緑	浅黄緑	13 C	2地区 包含層	上層
49	土師器 甕	口径 底径 器高	8.6 4.2 1.8	縁部右回転。外面底部回転系切り。内外面回転ナシ。	粗 細粒少量含む 平や灰質	灰白	灰白	13 C	1地区 包含層	上層
50	土師器 甕	口径 底径 器高	8.2 4.2 1.7	縁部右回転。外面底部回転系切り。内外面回転ナシ。	粗 細粒少量含む 平や灰質	灰白	灰白	13 C	1地区 包含層	上層
51	土師器 甕	口径 底径 器高	7.6 3.8 1.8	外面底部回転系切り。内外面回転ナシ。	粗 細粒多量に含 む平や灰質	灰白	灰白	12 C	1地区 包含層	上層
52	土師器 甕	口径 底径 器高	8.0 4.9 1.6	外面底部回転系切り。内外面回転ナシ。	粗 細粒少量含む 平や灰質	灰白	灰白	13 C	1地区 包含層	上層
53	土師器 甕	口径 底径 器高	8.4 4.2 1.7	回転系切り。内外面回転ナシ。(回転方向不明)	粗 砂粒少量含む 平や灰質	浅黄緑	浅黄緑	13 C	1地区 包含層	上層
54	土師器 甕	口径 底径 器高	9.0 4.0 1.6	回転系切り内外面ナシ調整	粗 細粒多く含む 平や灰質	灰白	灰白	12 C	2地区 包含層	上層
55	土師器 甕	口径 底径 器高	4.4 2.3 2.3	回転系切り内外面ナシ調整	粗 細粒多く含む 平や灰質	浅黄緑	浅黄	12-13 C	2地区 包含層	上層
56	土師器 甕	口径 底径 器高	7.4 4.0 2.1	縁部右回転。外面底部回転系切り。内外面は回転ナシ。	粗 砂粒少量含む 平や灰質	灰白	灰白	12 C	1地区 包含層	上層
57	土師器 甕	口径 底径 器高	7.2 4.1 1.7	縁部右回転。外面底部回転系切り。内外面は回転ナシ。	粗 砂粒少量含む 平や灰質	浅黄緑	浅黄緑	13 C	2地区 包含層	上層
58	土師器 甕	口径 底径 器高	8.0 5.0 1.8	回転系切り。外面に糸切り後の腹目痕が残る。内外面・内面は回転ナシ(回転方向不明)。内面縁付帯。	粗 細粒を少量含 む平や灰質	灰白	灰白	13 C	1地区 包含層	上層
59	土師器 甕	口径 底径 器高	4.1 1.8 1.8	回転系切り。内外面回転ナシ。(回転方向不明)	粗 砂粒少量含む 平や灰質	明褐色	明褐色	13 C	1地区 包含層	上層
60	土師器 甕	口径 底径 器高	(9.4) (12.3) 2.3 2.3	回転系切り内外面ナシ調整	粗 砂粒多く含む 平や灰質	灰白	灰白	12-13 C	2地区 包含層	上層
61	土師器 甕	口径 底径 器高	(8.2) (4.6) 2.3 2.3	縁部左回転。外面底部回転系切り。内外面回転ナシ。	粗 砂粒少量含む 平や灰質	浅黄緑	浅黄緑	13 C	1地区 包含層	上層
62	土師器 甕	口径 底径 器高	8.0 4.0 1.9	回転系切り。外面に糸切り後の腹目痕が残る。内外面・内面は回転ナシ(回転ナシ)。	粗 砂粒少量含む 平や灰質	灰白色	灰白	12 C	1地区 包含層	上層
63	土師器 甕	口径 底径 器高	8.0 4.2 1.9	縁部右回転。外面底部回転系切り。腹目痕有り。内外面回転ナシ。	粗 砂粒少量含む 平や灰質	灰白	灰白	12 C	2地区 包含層	上層
64	土師器 甕	口径 底径 器高	7.8 4.0 1.5	縁部右回転。外面底部回転系切り。内外面は回転ナシ。	粗 砂粒少量含む 平や灰質	灰白	灰白	12 C	2地区 包含層	上層
65	土師器 甕	口径 底径 器高	9.7 4.6 2.0	縁部右回転。外面底部回転系切り。内外面回転ナシ。口縁の一部にスラ付帯。	粗 砂粒少量含む 平や灰質	灰白	灰白	12 C	1地区 包含層	上層
66	土師器 甕	口径 底径 器高	14.3 6.0 5.3	外面底部回転系切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナシ。	粗 砂粒少量含む 平や灰質	灰白	灰白	12 C	1地区 包含層	上層

第3表 土器・土製品観察表(3)

67	土師器 陶	口径 底径 器高	13.8 5.9 5.8	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナズ。内面は厚着。	面 線跡少量含む やや軟質	灰褐	灰白	12C後半	1地区 包含層	上層
68	土師器 陶	口径 底径 器高	15.8 6.0 5.6	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナズ。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	1地区 包含層	上層
69	土師器 陶	口径 底径 器高	16.0 5.8 5.4	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナズ。外面口部部分厚着。	面 線跡少量含む やや軟質	灰褐	灰褐	12C	1地区 包含層	上層
70	土師器 陶	口径 底径 器高	(15.3) 6.6 5.9	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面ナズ調整。	面 線跡少量含む やや軟質	灰黄	灰黄	12C	1地区 包含層	上層
71	土師器 陶	口径 底径 器高	(15.8) 6.7 5.4	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面ナズ調整。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	2地区 包含層	上層
72	土師器 陶	口径 底径 器高	(15.7) 6.7 5.4	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面ナズ調整。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	黒	12C	2地区 包含層	上層
73	土師器 陶	口径 底径 器高	(15.6) 6.0 5.4	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面回転ナズ。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	2地区 包含層	上層
74	土師器 陶	口径 底径 器高	(15.8) 6.0 5.4	内外面は回転ナズ。底部回転糸切り。高台は貼り付け。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	2地区 包含層	上層
75	土師器 陶	口径 底径 器高	14.8 6.0 5.3	轆轤右回転。外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナズ。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	1地区 包含層	上層
76	土師器 陶	口径 底径 器高	15.8 6.4 5.4	轆轤右回転。外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナズ。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	1地区 包含層	上層
77	土師器 陶	口径 底径 器高	16.6 6.8 5.5	轆轤右回転。外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナズ。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	11C	1地区 包含層	上層
78	土師器 陶	口径 底径 器高	(15.6) 5.4 5.4	轆轤右回転。内外面回転ナズ。底部回転糸切り。高台は貼り付け。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	2地区 包含層	上層
79	土師器 陶	口径 底径 器高	15.8 6.4 5.4	轆轤右回転。外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナズ。外面底部に厚着。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C後半	1地区 包含層	上層
80	土師器 陶	口径 底径 器高	15.7 7.0 5.8	轆轤右回転。外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナズ。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C後半	1地区 包含層	上層
81	土師器 陶	口径 底径 器高	15.2 6.4 5.1	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナズ。外面上部に厚着。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	12-13C	1地区 包含層	上層
82	土師器 灰	口径 底径 器高	(11.4) 5.4 4.0	轆轤右回転。外面底部回転糸切り。内外面は回転ナズ。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	13C	2地区 包含層	上層
83	土師器 灰	口径 底径 器高	13.6 3.7 4.7	轆轤右回転。外面底部回転糸切り。内外面回転ナズ。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	1地区 包含層	上層
84	土師器 灰	口径 底径 器高	(11.0) 5.9 9.3	外面底部回転糸切り。根目取有り。内外面回転ナズ。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	1地区 包含層	上層
85	土師器 灰	口径 底径 器高	13.6 6.4 5.1	轆轤右回転。外面底部回転糸切り。内外面回転ナズ。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	1地区 包含層	上層
86	土師器 脚付土器	口径 底径 器高	(13.3) 7.0 4.8	内外面は回転ナズ。脚取り付。	面 線跡少量含む 軟質	灰白	灰白	11C	2地区 包含層	上層
87	土師器 脚付土器	口径 底径 器高	(12.4) 6.2 5.9	轆轤右回転。内外面は回転ナズ。脚取り付。	面 線跡少量含む 軟質	灰白	灰白	11C	2地区 包含層	上層
88	土師器 脚付土器	口径 底径 器高	(12.4) 6.2 9.4	轆轤右回転。内外面は回転ナズ。脚取り付。	面 線跡少量含む 軟質	灰白	灰白	11C	2地区 包含層	上層
89	土師器 有孔古付 土器	底径	4.8	回転糸切り。上面から下面に向かって穿孔。器口の部分以外は欠損。	面 線跡多く含む やや軟質	黄黄	黄黄	11C-13C	2地区 包含層	上層
90	土師器 有孔古付 土器	底径	(4.4)	溝状で狭く圓形不明。器口の部分以外は欠損。台部分がくぼくぼした穴が開いており、現在の形は筋線跡に近い。	面 線跡多く含む やや軟質	黄黄	黄黄	11C-13C	2地区 包含層	上層
91	土師器 台付土器	底径	4.4	回転糸切り。器口の部分以外は欠損。	面 線跡多く含む やや軟質	黄黄	黄黄	11C-13C	2地区 包含層	上層
92	土師器 台付土器	底径	(7.8)	外面底部回転糸切り。外面台部分にナズによる線が顕著に残る。内外面は回転ナズ。坯身部分欠失。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	11C-13C	2地区 包含層	上層
93	土師器 灰	底径	(5.8)	外面底部回転糸切り。内外面回転ナズ。底部のみ残存。	面 線跡少量含む やや軟質	にふ黄	にふ黄	12-13C	2地区 SD 1	
94	土師器 灰	底径	6.6	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナズ。底部のみ残存。	面 線跡少量含む 軟質	灰白	灰白	12C	2地区 S P 7	
95	土師器 灰	底径	6.6	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナズ。内面厚着。	面 線跡少量含む 軟質	灰白	灰白	12C	2地区 S P 16	
96	土師器 灰	底径	6.0	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナズ。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	2地区 S X 4	
97	土師器 灰	底径	6.8	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナズ。底部のみ残存。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	2地区 S D 1	
98	土師器 灰	底径	5.6	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナズ。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	12-13C	2地区 S X 8	
99	土師器 陶	口径 底径 器高	(16.0) 6.0 5.7	回転糸切り後、高台を貼り付けている。内外面ともにナズ調整。内面はナズ調整後、溝き(印文)調整を施している。	面 線跡少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	1地区 包含層	上層

第4表 土器・土製品観察表(4)

100	青磁皿	底径 4.0	内面に調染文をもち、内外面にオリーブ黄色釉染の施釉。外面底部付足施釉なし。	密 細粒少量含む 硬質	オリーブ黄 灰白(磁土)	オリーブ黄	12Cか	2地区 S P 3
101	白磁碗	底径 6.0	内面に調染文をもち、内外面施釉。	密 細粒少量含む 硬質	灰白	灰白	12-13C	2地区 S K 5
102	青磁碗	口径 14.8 底径 5.6 器高 6.3	外面に緑黄赤褐色文あり、見込みに「玉」字状の陽出文がみられる。外面底部以外無釉。	密 細粒少量含む 硬質	オリーブ灰 灰白(磁土)	オリーブ灰	13C	1地区 包含層 上期
103	青磁碗		口縁片。外面無施釉有り。	密 細粒少量含む 硬質	緑灰	緑灰	13C	1地区 包含層 中期
104	青磁碗	底径 16.0	外面無施釉有り。挖の目状高台。外面底部の挖の目状刷りされている部分以外の外面および内面無釉。内面底部花文様有り。	密 細粒少量含む 硬質	オリーブ灰 灰白(磁土)	オリーブ灰	13C	1地区 包含層 中期
105	青磁碗	底径 6.6	内外面施釉(底部以外)。内面底部に挖の目状刷りを施す。	密 細粒少量含む 硬質	灰オリーブ	灰オリーブ	12-13C	2地区 包含層 上期
106	青磁碗	口径 15.6 底径 6.2 器高 7.7	外面高台部分以外無釉。内面花文有り。	密 細粒少量含む 硬質	オリーブ黄 灰白(磁土)	オリーブ黄	12-13C	1地区 包含層 中期
107	白磁碗		内外面施釉。白磁玉縁施。	密 細粒少量含む 硬質	灰白	灰白	12C	2地区 包含層 上期
108	白磁碗		内外面施釉。白磁玉縁施。	密 細粒少量含む 硬質	灰白	灰白	12C	2地区 包含層 中期
109	白磁碗	器高 6.7	内面および底部部分以外の面に施釉。刷り出し高台。白磁玉縁施。	密 細粒少量含む 硬質	灰白 灰白(磁土)	灰白	12C	2地区 包含層 上期
110	白磁皿	口径 9.8 底径 4.1 器高 3.0	外面底部から中位まで削り。内面および外面口縁部より中位まで施釉。その他無釉。高台中央低高台。外面底部に花押と高台に凸線有り。	密 細粒少量含む 硬質	明オリーブ 灰白(磁土)	明オリーブ 灰	12-13C	2地区 包含層 上期
111	白磁皿	口径 10.2 底径 4.3 器高 2.6	外面底部から中位まで削り。その他の外面および内面無施釉ナド。内面および外面口縁部より中位まで施釉。その他無釉。	密 細粒少量含む 硬質	明オリーブ 灰白(磁土)	明オリーブ 灰	12-13C	2地区 包含層 中期
112	青磁碗	口径 13.7 底径 4.4 器高 4.5	外面底部より上部および内面に施釉。	密 細粒少量含む 硬質	灰オリーブ	灰オリーブ	13C	2地区 包含層 中期
113	白磁碗	底径 6.6	外面底部より上部および内面に施釉。	密 細粒少量含む 硬質	灰白	灰白	12C	2地区 包含層 中期
114	白磁碗	底径 7.6	内外面灰白色施釉。刷り出し高台。	密 細粒少量含む 硬質	灰白	灰白	12C	2地区 包含層 中期
115	瓦質土器鉢	口径 05.23	口縁部は外反している。外面はハタ調整後ナドで滑している。上唇には微細な紅点散見。内面はハタ調整されている。	粗 砂粒少量含む やや硬質	灰白	赤黒	12-13C	1地区 包含層 上期
116	土器鉢	口径 026.0	外面底部部子状吹き痕有り。外面ハタ調整後ナドで滑している。口縁部ナド調整。内面ハタ調整。	粗 砂粒少量含む やや硬質	灰黄緑	洗黄緑	14-15C	2地区 S K 1
117	瓦質土器鉢	口径 034.0	口縁部は外反している。外面上部に磨付着。外面口縁部ナド調整。微細な紅点有り。それ以外の外面ハタ調整。内面ハタ調整。	粗 砂粒少量含む やや硬質	灰白	灰白	12-13C	1地区 包含層 上期
118	瓦質土器羽釜	口径 027.0	唇は張り付いでヨコナ字で調整されている。外面上部には微細な紅点散見。斜い縦方向のハタ調整後、横方向にハタ調整されている。外面全体に微細な紅点散見。内面にはハタ調整の痕が顕著に散見する。	粗 砂粒少量含む やや硬質	黒	黒	13C	1地区 包含層 上期
119	瓦質土器羽釜	口径 027.0	唇は張り付いでヨコナ字で調整されている。外面上部には微細な紅点散見。斜い縦方向のハタ調整後、横方向にハタ調整されている。外面全体に微細な紅点散見。内面にはハタ調整の痕が顕著に散見する。	粗 砂粒少量含む やや硬質	黒	黒	13C	1地区 包含層 上期
120	瓦質土器羽釜	口径 027.0	唇は張り付いでヨコナ字で調整されている。外面上部には微細な紅点散見。斜い縦方向のハタ調整後、横方向にハタ調整されている。外面全体に微細な紅点散見。内面にはハタ調整の痕が顕著に散見する。	粗 砂粒少量含む やや硬質	黒	黒	13C	1地区 包含層 上期
121	瓦質土器羽釜	口径 028.6	が丸。唇は張り付いでヨコナ字で調整されている。外面上部には微細な紅点散見。斜い縦方向のハタ調整後、横方向にハタ調整されている。外面にはハタ調整の痕が顕著に散見する。唇上唇に微細な紅点散見する。	粗 砂粒少量含む やや硬質	褐灰	黒(上下) 灰(下)	13C	1地区 包含層 上期
122	瓦質土器羽釜	口径 031.6	唇は張り付いでヨコナ字で調整されている。外面上部には微細な紅点散見。斜い縦方向のハタ調整後、横方向にハタ調整されている。外面全体に微細な紅点散見。内面にはハタ調整の痕が顕著に散見する。	粗 砂粒少量含む やや硬質	褐灰	黒	13C	1地区 包含層 上期
123	瓦質土器羽釜	口径 032.4	唇は張り付いでヨコナ字で調整されている。外面上部には微細な紅点散見。斜い縦方向のハタ調整後、横方向にハタ調整されている。外面全体に微細な紅点散見。内面にはハタ調整の痕が顕著に散見する。	粗 砂粒少量含む やや硬質	黒	黒	13C	1地区 包含層 上期
124	瓦質土器足つき羽釜	口径 022.4 器高 21.2	唇は張り付いでヨコナ字で調整されている。外面上部には微細な紅点散見。斜い縦方向のハタ調整後、横方向にハタ調整されている。外面にはハタ調整の痕が顕著に散見する。唇上唇に微細な紅点散見する。唇上唇に微細な紅点散見する。唇上唇に微細な紅点散見する。	粗 砂粒少量含む やや硬質	褐灰	黒	13C	1地区 包含層 上期
125	瓦質土器足なし		脚部のみ残る。脚部は緩やかに再曲した棒状である。微細な紅点散見が見受けられる。	粗 砂粒少量含む やや硬質	灰白	灰白	14-15C	1地区 包含層 上期
126	瓦質土器深り鉢		外面ナド調整。内面ハタ調整。釉。	密 細粒少量含む 硬質	灰白	明褐灰	15C	2地区 包含層 上期
127	瓦質土器深り鉢	底径 17.65	外面ハタ調整後、ナドで滑している。内面ハタ調整後、6本を半環とする刷り目あり。	密 細粒少量含む 硬質	灰白	灰白	13-14C	2地区 S P 34
128	瓦質土器深り鉢	口径 25.7 底径 10.0 器高 11.0	そそぎ目有り。外面無施釉目録有り。外面底部から中位にかけて微細な紅点散見。口縁部ナド調整。内面ハタ調整。内面ハタ調整ナド調整不明。	密 細粒少量含む 硬質	灰白	灰	13-14C	1地区 包含層 上期
129	瓦質土器深り鉢	口径 029.0 底径 10.7 器高 10.7	内外面口縁部から中位まで刷りナド。その他表面刷り等の調整不明。	粗 砂粒少量含む 含む性質	灰	灰	13-14C	2地区 包含層 上期
130	瓦質土器深り鉢	口径 031.0 底径 8.6 器高 9.8	外面ハタ調整後、ナドで滑している。内面ハタ調整。	密 細粒少量含む 硬質	灰	灰黄	15C	2地区 S 5 1
131	瓦質土器深り鉢	口径 031.0 底径 10.0 器高 09.2	外面ハタ調整後、一部ナドで滑している。内面刷りナド調整。	粗 砂粒少量含む やや硬質	褐灰	灰白	15C	1地区 包含層 上期
132	瓦質土器鉢	口径 033.0	口縁部は大きく外反し、調整は微細な張り出し。外面口縁部はナド調整。外面には微細な紅点散見。斜い縦方向のハタ調整後、横方向のハタ調整を施す。外面には微細な紅点散見。内面にはハタ調整の痕が顕著に散見する。	粗 砂粒少量含む やや硬質	黒	黒	15C	2地区 包含層 上期

第5表 土器・土製品観察表(5)

探出・調査 番号	器 形 類	法 量 ()は保存数	特 徴	重 量 (g)	時 期	出土地点
133	土製品 繡瓶口	長さ [12.3] [7.8]	孔径2.8cm(最大)。先端部は、溶融・発泡し、スラグが付着している。外面磨面は残有り。割れ口に粘土層の跡有り。		不明	1地区 包含層 中層
134	土製品 繡瓶口	長さ [11.9] [8.6]	孔径3.0cm(最大)。スラグが付着する。		不明	1地区 包含層 中層
135	土製品 繡瓶口	長さ [13.5] 9.0	孔径2.7cm(最大)。先端部は、溶融・発泡し、スラグが付着する。		不明	1地区 包含層 中層
136	土製品 繡瓶口	長さ [10.5] [10.3]	孔径2.8cm(最大)。先端部は、溶融・発泡し、スラグが付着する。下半部欠失。		不明	1地区 包含層 中層
137	土製品 繡瓶口	長さ [8.7] [9.1]	孔径3.0cm(最大)。下半分欠失。先端部は、溶融・発泡し、スラグが付着する。		不明	1地区 包含層 中層
138	土製品 繡瓶口	長さ [13.4] [8.6]	孔径3.1cm(最大)。下半分欠失。先端部は、溶融・発泡し、スラグが付着する。外面に磨面が顕著に確認できる。		不明	1地区 包含層 中層
139	土製品 繡瓶口	長さ [14.3] [18.9]	孔径2.7cm(最大)。先端部は、溶融・発泡し、スラグが付着する。		不明	1地区 包含層 中層
140	土製品 繡瓶口	長さ [15.0] [18.5]	孔径2.7cm(最大)。先端部は、溶融・発泡し、スラグが付着する。		不明	1地区 包含層 中層
141	土器 土玉	長軸 3.0 短軸 2.8 厚さ 2.2	形状が散しく調整不明。孔は貫通している。		不明	2地区 包含層 中層
142	土器 土罐	径 1.3	磨面が残る管状土罐である。		不明	2地区 包含層 上層

第6表 鉄製品観察表

探出・調査 番号	器 形 類	法 量 ()は保存数	特 徴	重 量 (g)	時 期	出土地点
143	鉄製品 鉄	径 2.4	永年錆着。正規品に比べやや小型。鉄錆の可能性あり。	1.3	中層~近層	1地区 包含層 上層
144	鉄製品 針	長さ 4.4 厚さ 0.7 0.5	両食が散しく、軽い。鍛造品と思われる。	3.2	不明	1地区 包含層 中層
145	鉄製品 鉄	長さ 5.8 厚さ 1.7 0.5 0.5	鉄錆の付着が散しい。鍛造品と思われる。	34.6	不明	2地区 包含層 中層
146	鉄製品 鉄	長さ 1.9 厚さ 1.0 1.0	鉄錆の付着が散しい。鍛造品と思われる。	100.1	不明	1地区 包含層 中層
147	鉄器 鉄片	長さ [4.0] 厚さ [2.0]	両食が散しく、もろい。基部が鋭状に彫らんでいる。	58.2	不明	1地区 包含層 上層

第7表 木製品観察表(1)

探出・調査 番号	器 形 類	法 量 ()は保存数	特 徴	時 期	出土地点
148	木製品 木榑(榑の子)	長さ 12.8 幅 [75.9]	表面剥離??所有り。	不明	2地区 包含層 中層
149	木製品 木榑(榑の子)	長さ 15.1 幅 7.1 厚さ 6.1	中心部で折れている。中央部表裏割離部分有り。丸木の両端を切断した後、簡単に整形し、中央部は両端方向から細くなるように削りだし、くびれる。	不明	2地区 包含層 中層
150	木製品 木榑(榑の子)	長さ 9.3 幅 [75.4] 厚さ 5.2	左半分欠失。表面剥離部分有り。丸木の両端を切断した後、簡単に整形し、中央部に向かって細くなるように削りだし、くびれる。	不明	2地区 包含層 中層
151	木製品 木榑(榑の子)	長さ 16.5 幅 [75.3] 厚さ 2.3	丸木の両端を切断した後、簡単に整形し、中央部は両端方向から細くなるように削りだし、くびれる。	不明	2地区 包含層 上層
152	木製品	長さ 23.4 幅 6.7 厚さ 4.6	穿孔有り。穿孔の直径3mm。下半部欠失。本札もしくは板か。	不明	2地区 包含層 中層
153	木製品 しゃもじ	長さ 20.2 幅 [7.3] 厚さ 3.1	厚さ・φ0.85cm、厚さ・柄1.1cm。譲渡りの可能性有り。	不明	2地区 包含層 上層
154	木製品 刺孔有り。	長さ 10.0 厚さ 1.7	刺孔有り。	不明	2地区 包含層 中層
155	木製品 削り物	長さ 15.7	楕円形。厚さ1.1cm(最大)用途不明。	不明	2地区 包含層 上層
156	木製品 削り物(歯)	長さ [17.2] 厚さ 9.8	目の穴2ヶ所所有り。左半分欠失。	不明	2地区 包含層 中層
157	木製品 削り物	長さ [15.2] 厚さ 9.7	楕円形。左半分欠失。用途不明。	不明	2地区 包含層 中層
158	木製品	長さ [46.9]	幅3.5cm(最大)厚さ1.9cm(最大)柄の径2.1cm先端部付着に針孔と思われる顔い未貫通の窪み有り。用途不明。	不明	2地区 包含層 中層
159	木製品 下駄(一木産物)	長さ [18.7] 幅 [6.9]	高さ5.7cm(最大)厚さ1.4cm(本体)2枚歯を削り出す。左半分欠失。穿孔1ヶ所所有り。2ヶ所欠失。	不明	2地区 包含層 上層
160	木製品 下駄(一木産物)	長さ 19.3 幅 [6.3]	高さ2.6cm(最大)厚さ1.5cm(本体)右足用の下駄。2枚歯を削り出すが、後ろの方が摩耗が散しい。右半分欠失。穿孔2ヶ所所有り。1ヶ所欠失。使用による摩耗により、履帯等の使用痕を認められる。	不明	2地区 包含層 上層
161	木製品 下駄(一木産物)	長さ [18.9] 幅 [6.5]	高さ5.5cm(最大)厚さ1.5cm(本体)2枚歯を削り出す。右半分欠失。穿孔1ヶ所所有り。2ヶ所欠失。	不明	2地区 包含層 上層
162	木製品 下駄(一木産物)	長さ [18.3] 幅 [7.4]	高さ3.4cm(最大)厚さ1.7cm(本体)小振りの下駄。2枚歯を削り出す。穿孔1ヶ所所有り。2ヶ所欠失。	不明	2地区 包含層 上層

第8表 木製品観察表(2)

探検・採掘 番号	品名	形状	長さ cm	厚さ cm	特徴	重量(g)	色調 (写真)	時期	出土地点
163	木製品 下駄(一 木通)	長靴	13.7	9.6	高さ2.0cm(最大)厚さ1.3cm(本体)2枚歯を削り出すが摩耗が激しく、一部折損している。穿孔1ヶ所有り。穿孔部分一部欠失。小振りな下駄。		不明	2地区 包含層	中期
164	木製品 下駄(一 木通)	長靴	[21.0] [5.6]		高さ3.3cm(最大)厚さ1.6cm(本体)2枚歯を削り出す。穿孔部分は欠失している。		不明	2地区 包含層	上層
165	木製品 下駄(一 木通)	長靴	[20.0] [5.2]		高さ2.2cm(最大)厚さ1.4cm(本体)2枚歯を削り出すが、歯歯は折損。後ろ歯も摩耗が激しい。穿孔2ヶ所有り。1ヶ所は歯歯補修のための穿孔の可能性あり。		不明	2地区 包含層	中期
166	木製品 下駄(一 木通)	長靴	[18.7] [3.5]		高さ4.0cm厚さ1.6cm(本体)2枚歯を削り出すが、後ろ歯は折損している。穿孔1ヶ所有り。2ヶ所欠失。		不明	2地区 包含層	中期
167	木製品 下駄(一 木通)	長靴	[18.6] [4.2]		高さ3.1cm(最大)厚さ2.3cm(本体)穿孔1ヶ所有り。欠失部分多し。2枚歯を削り出すが、摩耗が激しい。		不明	2地区 包含層	中期

第9表 石製品観察表

探検・採掘 番号	品名	形状	長さ cm	厚さ cm	特徴	重量(g)	色調 (写真)	時期	出土地点		
168	石製品 甲石	長靴	13.9 11.8		両側三方に敲打痕が確認できる。大きな傷みは上面と下面の二方向である。石材は閃緑岩。	1730	灰白	弥生前期- 中期	1地区 包含層	下層	
169	石製品 甲石	長靴	12.3 9.2 5.2		両側三方に敲打痕が確認できる。大きな傷みは上面と下面の二方向である。石材は閃緑岩。	1000	灰白	弥生前期- 中期	1地区 包含層	上層	
170	石製品 大形石玉	長靴	4.8 0.4		石材は泥岩。穿孔未成1ヶ所有り。穿孔部破損。	24.7	暗灰	弥生前期末	1地区 包含層	下層	
171	石製品 地方石	長靴	6.7		磨きの痕が残る。石材は、凝灰岩。	147.3	灰白	弥生前期- 中期	1地区 包含層	中期	
172	石製品 碧玉	長靴	2.2 0.9		石材は碧玉。完成で磨面は丁寧に磨削されている。	3.2	緑緑	6C	2地区 包含層	上層	
173	石製品 磨石	長靴	[7.6]		両面すべてに使用痕を確認できる。一面はスラズが付着しており測定不能。石材は砂岩。	141.2	灰白	不明	1地区 包含層	上層	
174	石製品 遺石	口徑	(18.0)		口縁部の両方に輪状把手のついた石輪。把手断面は扇形である。内面には環り状の凹みがある。外面は細かく磨削がかけられている。		黒 灰白(内面)	11C	不明	2地区 包含層	中期
175	石製品 滑石磨石 孔四穿	長靴	20.0 1.9 0.3		中央穿孔。完成。穿孔の直径は1cm。	2	灰	6C	2地区 包含層	中期	
176	石製品 滑石磨石 孔四穿	長靴	2.9 2.7 0.2		端部穿孔。完成。	7.4	灰	6C	2地区 包含層	中期	
177	石製品 滑石磨石 孔四穿	長靴	6.0 3.6 0.9		中央穿孔。穿孔の直径は3cm。一部欠損。	33.5	灰	6C	2地区 包含層	中期	
178	石製品 滑石磨石 孔四穿	長靴	5.0 1.2		中央穿孔。穿孔の直径は5.5mm。	32	灰	6C	2地区 包含層	中期	
179	石製品 滑石磨石	長靴	4.9 0.7 1.0		石輪と磨石される。表に削った溝があり、裏面にも方向の異なる浅い溝がある。	21.5	灰	6C	1地区 包含層	中期	
180	石製品 滑石磨石 孔三穿	長靴	6.1 2.2 0.2		端部穿孔。完成。扇形。穿孔の直径2cm。	18.6	灰	6C	2地区 包含層	中期	
181	石製品 滑石磨石 孔三穿	長靴	2.6 1.8 0.4		穿孔なし。下部欠損。扇形か。	3.3	灰	6C	2地区 包含層	中期	
182	石製品 滑石磨石 孔三穿	長靴	2.3 0.5		端部穿孔。完成。扇形。穿孔の直径1cm。	7.1	灰	6C	2地区 包含層	中期	
183	石製品 滑石磨石 孔三穿	長靴	4.2 2.5 0.6		端部穿孔。一部欠損。扇形。穿孔の直径2cm。	10.2	灰	6C	2地区 包含層	中期	
184	石製品 滑石磨石 孔三穿	長靴	[3.2] [2.8] [0.5]		端部穿孔。上端部欠損。扇形。穿孔の直径2cm。	8.9	灰	6C	2地区 包含層	中期	
185	石製品 滑石磨石 孔三穿	長靴	[2.8] [2.6] [0.5]		端部穿孔。下部欠損。扇形か。穿孔の直径1cm。	6.7	灰	6C	2地区 包含層	中期	
186	石製品 滑石磨石 孔三穿	長靴	[2.1] [2.1] [0.6]		端部穿孔。下部。上端部欠損。扇形か。穿孔の直径1cm。	5.4	灰	6C	2地区 包含層	中期	
187	石製品 滑石磨石 孔三穿	長靴	[3.5] [2.4] [0.6]		端部穿孔。下部。上端部欠損。扇形か。穿孔の直径1cm。	9.3	灰	6C	2地区 包含層	中期	
188	石製品 滑石磨石 孔三穿	長靴	4.8 3.8 0.5		端部穿孔。完成。扇形。穿孔の直径2cm。	21.6	灰	6C	2地区 包含層	中期	
189	石製品 滑石磨石 孔三穿	長靴	[5.6] [4.4] [1.0]		端部穿孔。上端部欠損。穿孔の直径2cm。	42.5	灰	6C	2地区 包含層	中期	
190	石製品 滑石磨石 孔三穿	長靴	[9.4] [5.3] [1.9]		欠損部分が多少不明。穿孔部分が破損しているが、その大ききからかなり大型のせいひんであったと推察できる。	91.8	灰	6C	1地区 包含層	中期	
191	石製品 滑石磨石 孔三穿	長靴	[5.6] [3.7] [0.8]		端部穿孔。上端部欠損。扇形。穿孔の直径2cm。	27.9	灰	6C	1地区 包含層	中期	
192	石製品 滑石磨石 孔三穿	長靴	[6.4] [4.4] [1.1]		端部穿孔。一部欠損。扇形。穿孔の直径2cm。	46	灰	6C	2地区 包含層	中期	
193	石製品 滑石磨石 孔三穿	長靴	3.4 1.7 0.5		勾玉形の模造品。端部穿孔。	7.3	灰	6C	2地区 包含層	中期	
194	石製品 石輪	長靴	9.5		両面輪郭式で両側の粗い刻線の後、両面は細かく調整を施す。基部石輪先端部をわずかに欠失。石材は珉質片岩。	1.3	灰黄	弥生	2地区 包含層	上層	
195	石製品 石輪	長靴	2.3 0.4		完成。両面輪郭式で両側の粗い刻線の後、両面は細かく調整を施す。石材は珉質片岩。	1	灰黄	弥生	2地区 包含層	中期	

V ま と め

今回の調査では、獨立柱建物2棟、土坑13基、井戸1基、溝1条、不明遺構8基、柱穴約200個の遺構が確認された。これらは、調査区の北西側から南東側にのびると考えられる舌状の狭い遺構面上(南北に約30m、東西約37m)に展開し、集落を形成する。遺構より出土した遺物は、弥生時代中期、12~13世紀頃、14~15世紀頃の遺物で、この地において、弥生時代中期から中世まで断続的に人々のくらしが営まれたことをうかがわせる。この集落跡を挟むように北側から東側及び南西側には、調査区の大半を占める一帯には遺物包含層が堆積しており、掘り込みの結果、河川跡を検出した。このことから、大崎遺跡(木船地区)は河川に岬状にはり出した場所に立地する集落跡といえよう。調査により、この河川は集落跡の北西側に細長く入り込んでいることがわかった。遺跡周辺の川岸はかなり入り組んでいたと推定される。遺物包含層からは、上位層より14~15世紀頃の土師器や瓦質土器、その下から12~13世紀頃の土師器・瓦質土器・磁器・木製品・フイゴ羽口・スラグ、中位層より6世紀後半の須恵器、旧河川内の岸付近および河川最下層付近より弥生土器など、多量の遺物が出土した。しかし、調査前の試掘において発見された縄文土器は、今回の調査では検出されなかった。これらの事実の意味することを遺跡周辺の旧地形および周辺の環境から、本遺跡の性格について考察していく。

遺跡周辺のボーリング調査(第25図)により、表土から11~14mの深さまで、砂礫・玉石混じり砂礫の堆積が認められ、本遺跡は、西目山(312m)の南麓の旧河川の北岸付近に形成された沖積地上に立地したものと考えられる。調査により、旧河川の一部を検出したが、河川の規模を確認することはできなかった。しかし、中世以前の海岸線が遺跡の南方約1kmの地点まで追っていたと推定されることから、遺跡付近は河口に近い場所であったと考えられる。また、2地区の南約130mの地点で実施された山口県教育委員会による試掘の結果によると、表土より3.25m下まで旧河川とほぼ同様の土層であることから、遺跡の南側を流れる現在の劍川(川幅15m程度)より川幅が広がった可能性が高い。

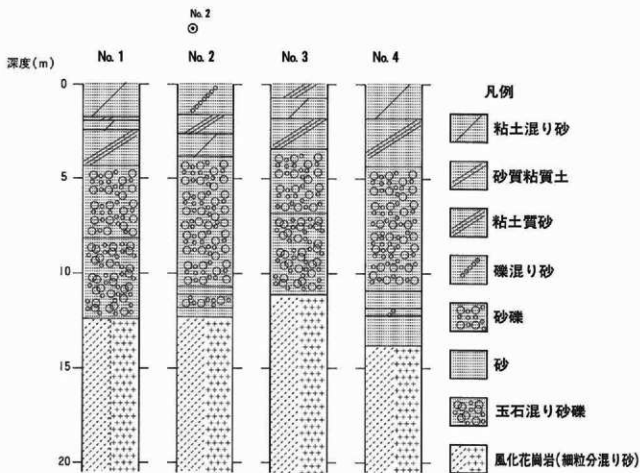
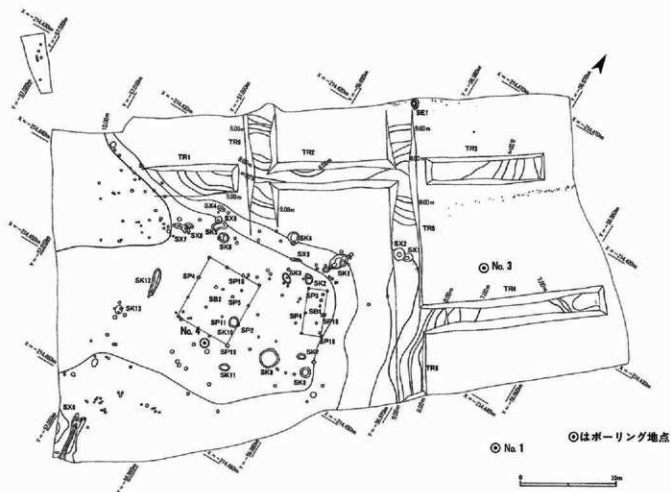
以上のことから、「このあたりには昔船着き場があった。」という古老の話や、この地の小字名「木船」そして、調査区内の入り組んだ川岸、岸から投棄されたように検出された弥生土器や岸付近の柱穴や獨立柱建物の存在などと合わせて考えると、本遺跡には船着き場が存在し、それに関係する施設も存在していた可能性はあると考える。

遺跡の西側約500mの丘陵に大崎遺跡(弥生時代)があるが、弥生時代の土坑1基を検出し、旧河川を広く覆っている遺物包含層から弥生土器が多数出土した本遺跡との関連については不明であるが、弥生時代の集落は遺跡の西方に広がる可能性は高いと推定する。

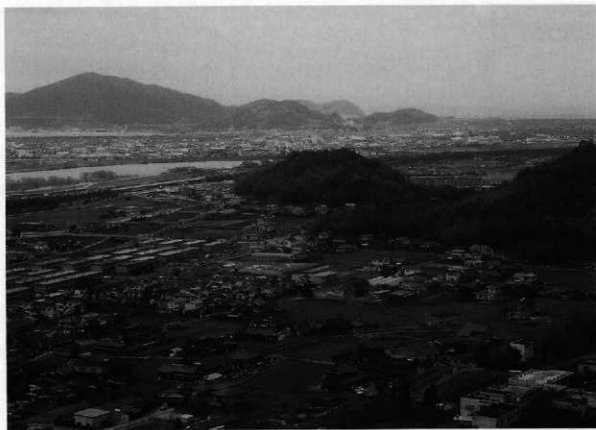
旧河川内の岸近くにおいて、12~13世紀頃の土器とともに、多数のフイゴ羽口やスラグが出土した。破片は大きく、近い場所から投棄された可能性もあり、金属製品生産に関わる遺構の確認はできなかったが、12・13世紀には、河川または低湿地に面したこの地または周辺において、金属製品の生産が行われていた可能性は考慮する必要がある。

参考文献

- 防府市 『防府市史 資料Ⅰ』 1994年
山口県教育委員会 『真正権寺遺跡Ⅱ 大崎岡古墳群 大崎遺跡』 1985年



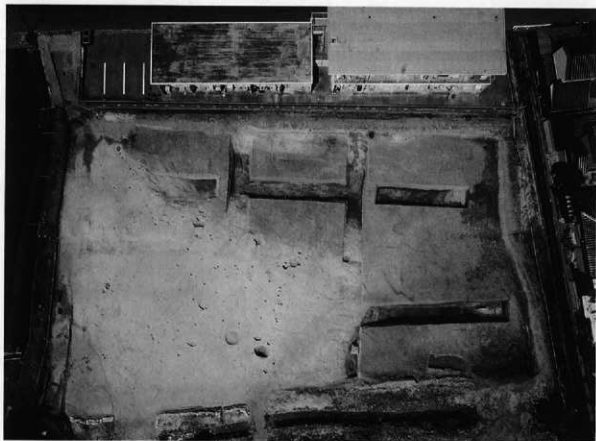
第25図 ボーリング実施位置及びボーリング柱状図



北東より大崎遺跡を望む



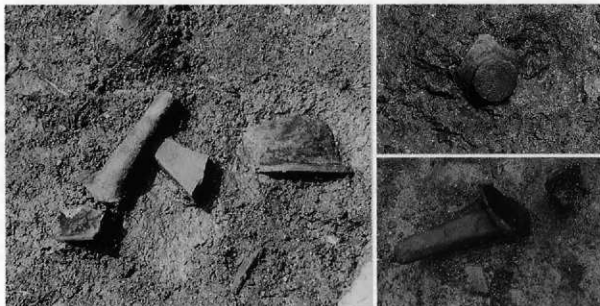
1地区全景（東より）



2地区全景（南より）



2地区西側（南より）



(上层)



(中层)

I地区遺物包含層内遺物出土状況①



1地区遺物包含層内遺物出土状況②(下層)



1地区杭列検出状況①(南より)



1地区杭列検出状況②(南より)

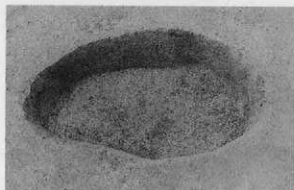


1地区杭列内遺物出土状況



1地区杭列検出状況③(西より)

図版 6



SK11完掘 (南より)



SK3完掘 (南より)



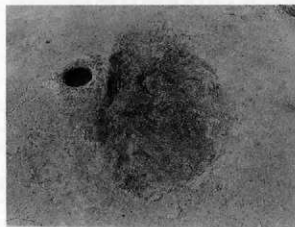
SE1遺物出土状況 (北東より)



SE1完掘 (北東より)



SE1完掘 細部 (南より)



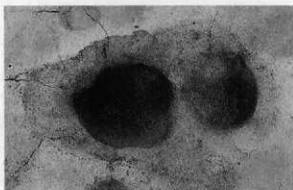
SK 2 完掘 (南より)



SK 4 完掘 (東より)



SK 7 完掘 (南より)



SK 13 完掘 (西より)



SK 1 遺物出土状況 (東より)



SK10完掘 (南より)



SK6完掘 (北より)



SK8完掘 (南より)



SK5遺物出土状況 (東より)



SK9遺物出土状況 (南より)



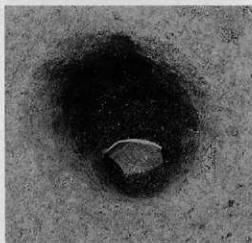
SK9遺物出土状況 細部 (東より)



SB 2 (南より)



SB 1 (西より)



SP 3 遺物出土状況 (北より)



SP 7 遺物出土状況 (東より)



SP10遺物出土状況 (南より)



SX 6・7 完掘 (東より)



SX 3 完掘 (南より)



SX 5 完掘 (南より)



SX 8・SD 1 遺物出土状況 (南より)



SD 1 土層断面 (東より)



SD 1 土層断面 (北より)



TR5完掘(北より)



TR3完掘(東より)



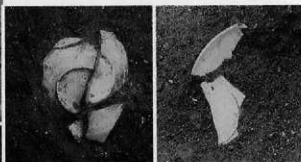
TR4完掘(西より)



TR4北西壁土層断面(南より)



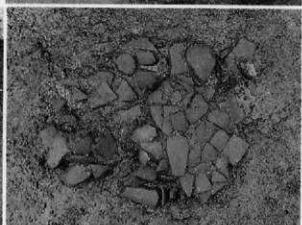
TR5北東壁土層断面(西より)



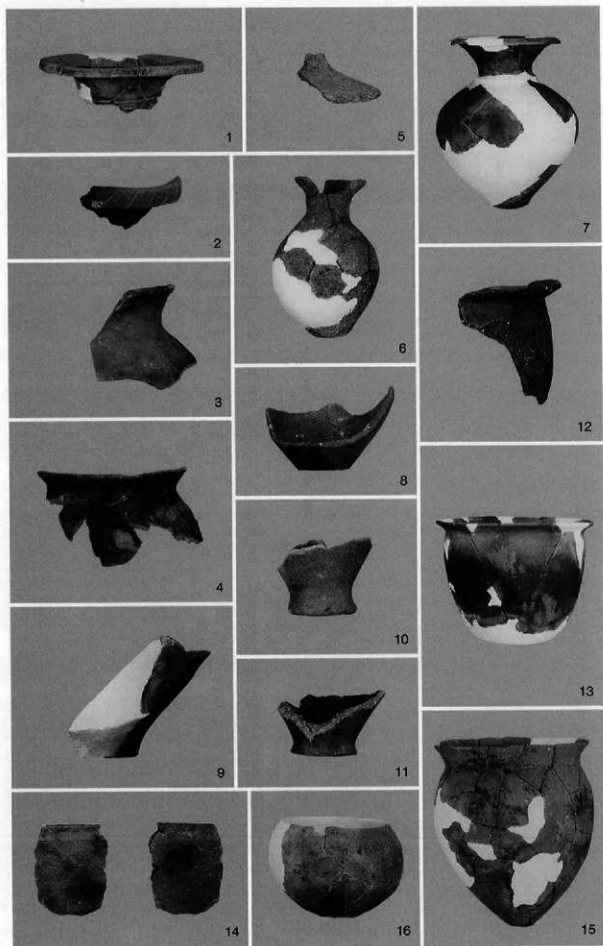
2地区遺物包含層内遺物出土状況①(上層)



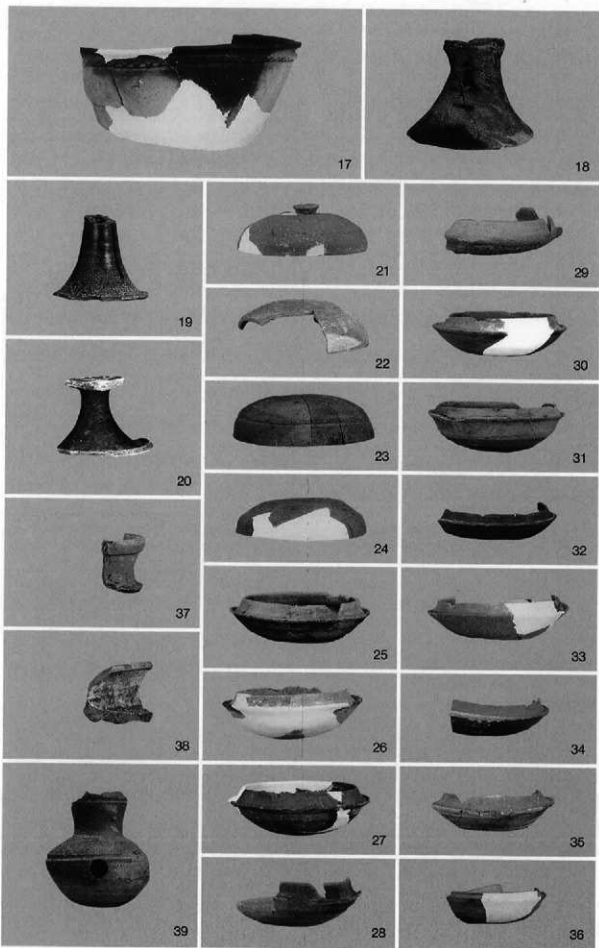
(中层)



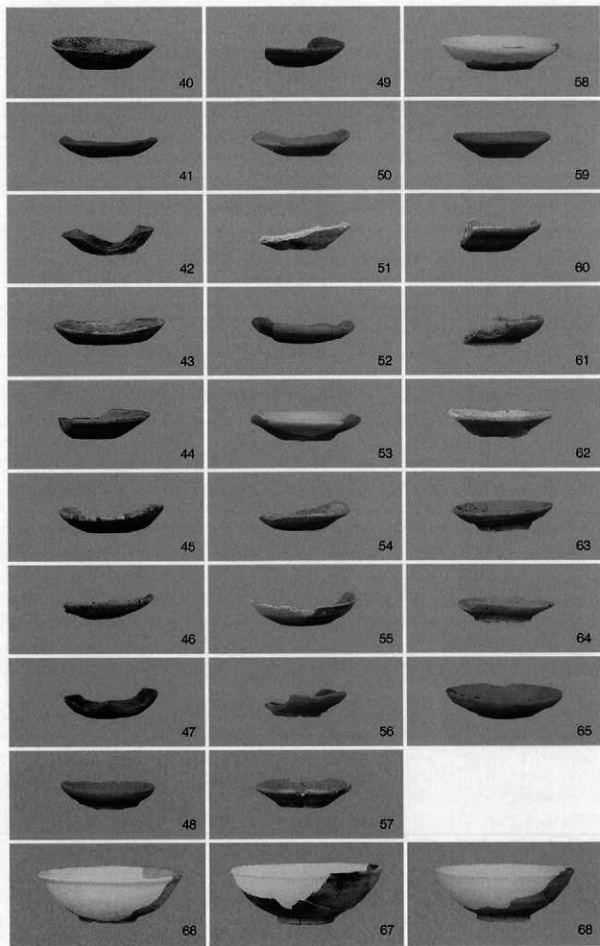
2地区遺物包含層内遺物出土状況② (下層)



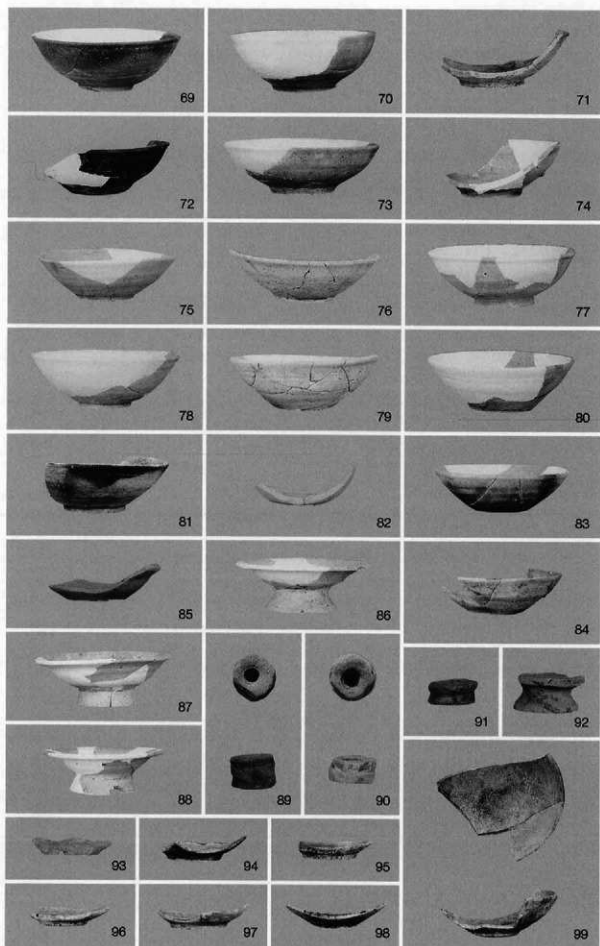
出土遺物 (弥生土器)



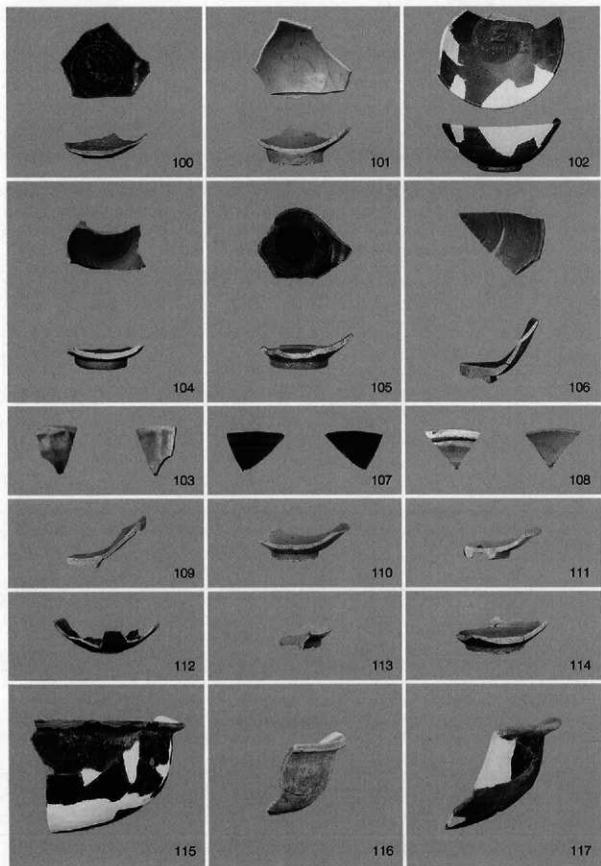
出土遺物（弥生土器・須恵器）



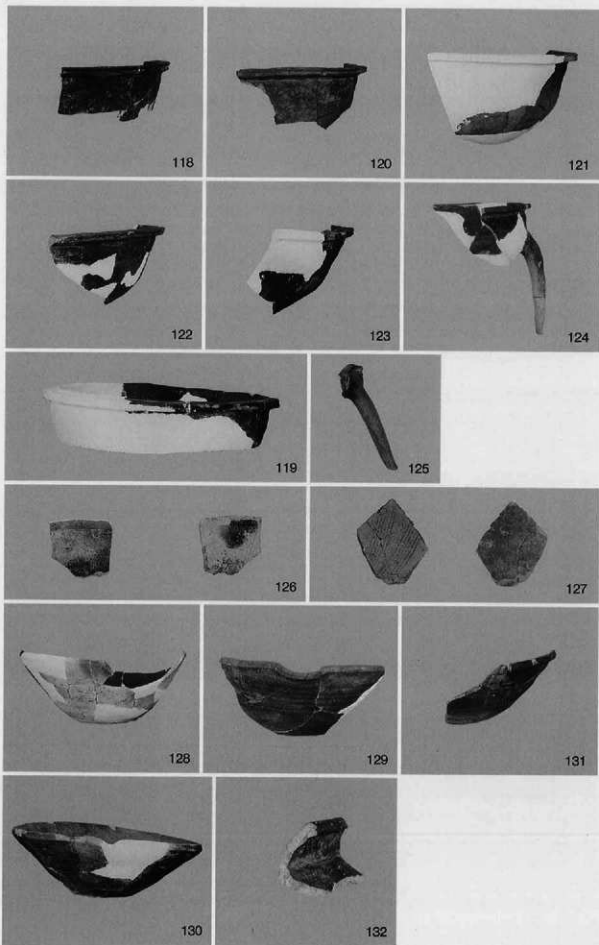
出土遺物（土師器 1）



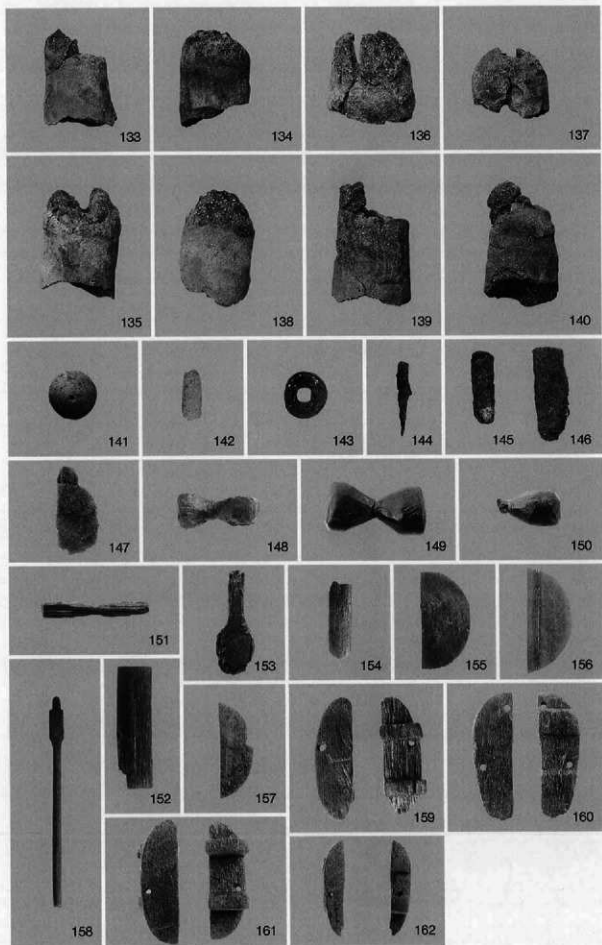
出土遺物 (土師器 2)



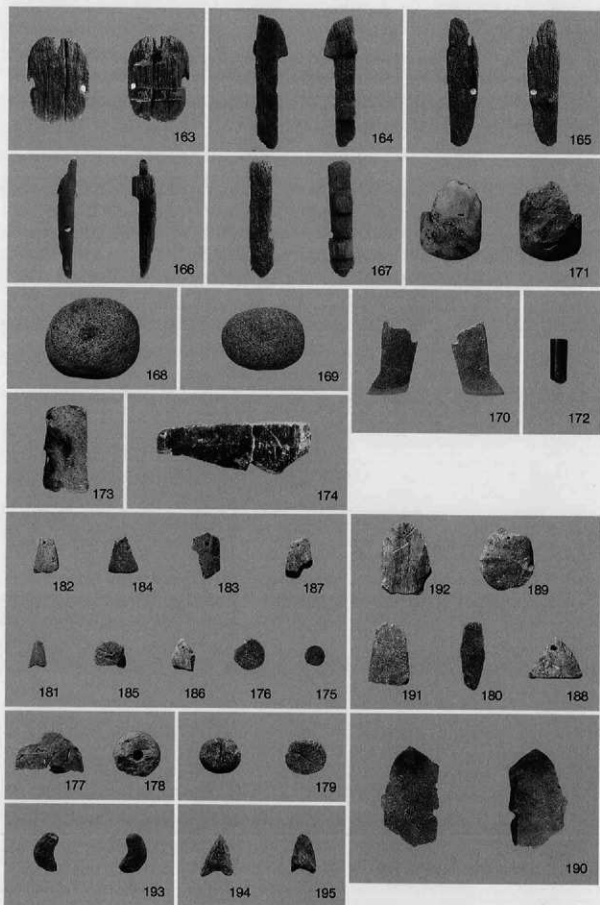
出土遺物（磁器・土師器・瓦質土器）



出土遺物 (瓦質土器)



出土遺物 (土製品・鉄製品・木製品)



出土遺物（木製品・石製品）

報告書抄録

ふりがな	おおさきいせき(きふねちく)							
書名	大崎遺跡(木船地区)							
副書名								
巻次								
シリーズ名	山口県埋蔵文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第22集							
編集著者名	西田 宏 西尾 健司							
編集機関	山口県埋蔵文化財センター							
所在地	〒753-0073 山口県山口市春日町3-22 TEL083-923-1060							
発行年月日	西暦2001年3月23日(平成13年3月23日)							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°' "	°' "		m ²	
おおさきいせき 大崎遺跡 (木船地区)	やまぐちけんほうし 山口県防府市 おおいせき 大字大崎	35206		34°4'0"	131°33'0"	20000508 ↓ 20000929	2,800	県営住宅 建築工事
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大崎遺跡 (木船地区)	集落跡	弥生時代 古 代 中 世	掘立柱建物 2棟 土坑 13基 井戸 1基 溝 1条 不明遺構 8基 柱穴 約200個	弥生土器 須恵器 土師器 瓦質土器 磁器 土製品(轆羽口) 木製品(下駄・榎の子 ・曲げ物) 石製品(敲石・磨製石 斧・管玉・滑石製 模造品・石鏃・石 鏃) 鉄製品		河川に面して展開した弥生時代～中世にかけての集落跡を確認した。		

山口県埋蔵文化財センター調査報告 第22集

大崎遺跡 (木船地区)

2001年3月

財団法人山口県教育財団

編集・発行 山口県埋蔵文化財センター
〒753-0073山口市春日町3-22

印刷 大村印刷株式会社
(防府市西仁井令一丁目21-55)